

令和4年度（2022年度）

愛 知 県

「若者・外国人未来応援事業」

成 果 報 告 書

令和5年3月

愛知県教育委員会生涯学習課



目次

1	本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的	1
2	事業の全体概要	2
3	令和4年度「若者・外国人未来塾」の実施状況	
	■ 名古屋地域	8
	■ 豊橋地域	12
	■ 豊田地域	15
	■ 半田地域	18
	■ 春日井地域	23
	■ 一宮地域	27
	■ 蒲郡地域	30
	■ 愛西地域	36
	■ 知立地域	40
	【日本語学習支援】	
	■ 名古屋地域	43
	■ 豊橋地域	46
	■ 豊田地域	49
	■ 蒲郡地域	52
	<項目>	
	・ 参加者の状況	
	・ 参加者の感想・メッセージ	
	・ 支援スタッフ	
	・ 参加者への周知・広報	
	・ 成果と課題（支援スタッフ・運営者）	
	・ 運営者の声	
	○ 参加者ピックアップコラム	
4	令和4年度「若者未来応援協議会」の実施状況	
	開催日と主な協議内容等について	58
5	学習支援に参加された皆さんの声	62
6	事業の成果と課題	
	(1) 成果	63
	(2) 課題	64

1 本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的

近年、所得格差は拡大し「子供の貧困」が社会的に注目されている。厚生労働省の2019年国民生活基礎調査によると、2018年の貧困線¹は127万円となっており、貧困線を下回る所得の世帯が相対的貧困にあたる。将来的な進学や就職などへの影響も深刻とされる、17歳未満の子どもの貧困率²は13.5%でおよそ7人に1人が該当し、貧困家庭に生活するといわれている。特に、社会的困難を抱えた子供にとって学校を離れた後の継続的な支援がないことが課題とされている。

本県においても、義務教育段階の支援については、放課後子ども教室や地域未来塾及び不登校の支援をアウトリーチにより実施している家庭教育コーディネーター設置事業など（いずれも生涯学習課が担当課）があるが、義務教育終了後の社会的困難を抱える若者に対する支援体制は十分ではない。

また、本県には外国人居住者が多く、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は10,749人と全国最多であり、2番目に多い神奈川県（5,261人）の2倍超と突出している。

本県の困難を抱える若者の状況については以下のとおりである。

【県の状況】

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ・中学校不登校生徒数：11,352人 | 全国ワースト3位（2021年度） |
| ・中学校卒業後進路未定者数：601人 | 全国ワースト2位（2021年度） |
| ・高等学校等中退者数：2,199人 | 全国ワースト4位（2021年度） |
| ・日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数：10,749人 | 全国1位（2021年度） |

こうした状況を鑑み、本県は、文部科学省の「地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン～親子の学び・育ち応援プラン～」（後に「学びを通じたステップアップ支援促進事業」となる。）の委託を受け、2017（平成29）年度から「若者・外国人未来応援事業」の実施を開始した。その後、3年間委託を継続し、令和2年度からは「学校・家庭・地域連携協力推進事業補助金」（学校を核とした地域力強化プラン）の一つとして新設された「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」を活用して事業を行うこととなった。本年度で6年目となる。

本事業においては、中学校卒業後の進路未定者や高等学校中退者等の社会的自立を支援するため、地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という）をはじめとした、教育、福

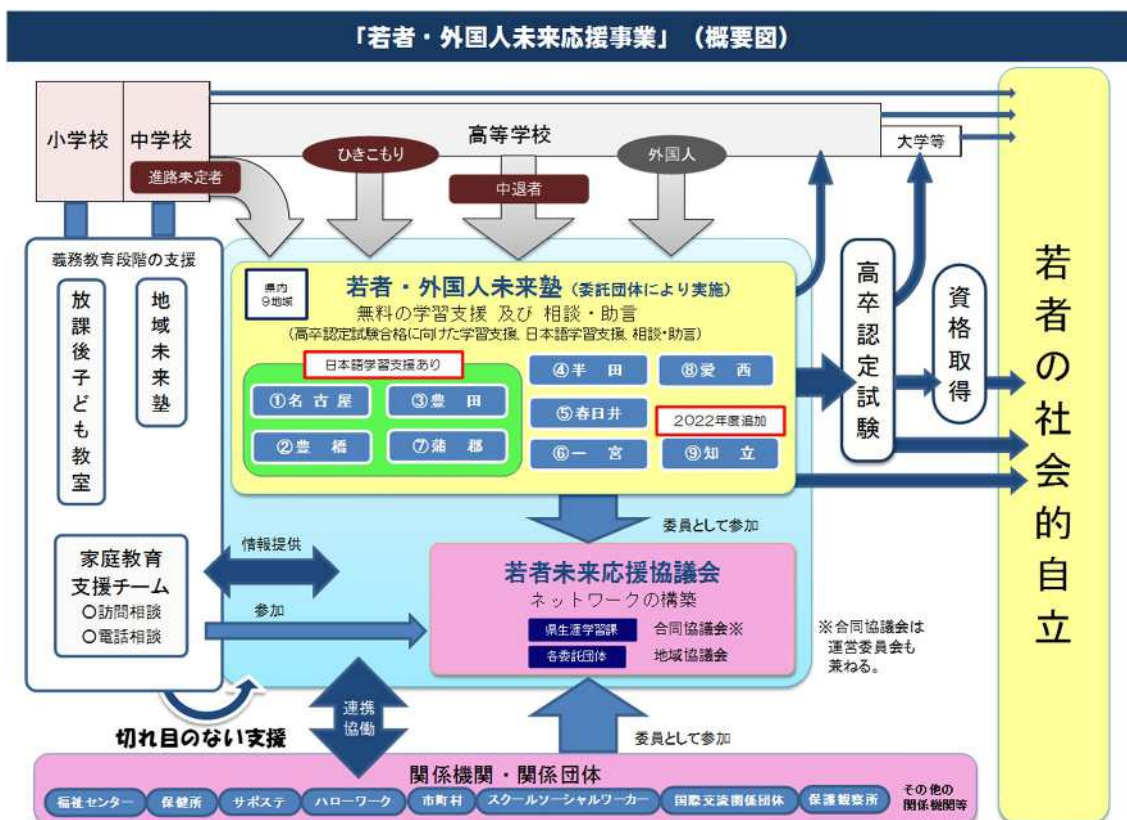
¹ 等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額

² 子ども（17歳以下の者）全体に占める、等価可処分所得が貧困線に満たない子どもの割合

社、保健、労働、多文化共生等の関係機関等と連携し、学校教育から切れ目のない支援を行うこととした。また、社会と出会う学びづくりをとおして、社会的困難を抱えた若者の自己肯定感を高め、自立を促すことにより将来の貧困を防ぐとともに、若者の多様な居場所づくりに地域全体で取り組むことにより、困難を抱えた若者を地域で支援する体制の構築を目指すものである。

2 事業の全体概要

【令和4（2022）年度 事業概要図】



(1) 「若者・外国人未来塾」・「若者未来応援協議会」

愛知県では、事業名を「若者・外国人未来応援事業」とし、県教育委員会生涯学習課が主体となり、7つの委託団体及び関係機関・団体等と協働して、事業を実施する。

本事業は、「若者・外国人未来塾」と「若者未来応援協議会」の二つを柱とする。

ア 若者・外国人未来塾

「若者・外国人未来塾」とは、県内9地域（名古屋、豊橋、豊田、半田、春日井、一宮、蒲郡、愛西、知立）において、無料の学習支援及び相談・助言事業を行う支援の場である。中学卒業後の進路未定者、高校中退者、ひきこもり状態の人及び外国人等、社会的困難を抱える若者を対象として、主に高卒認定試験合格に向けた支援を行う。また、名古屋、豊橋、豊田、蒲

郡の4会場においては、日本語習得の不十分な外国人のため、学習言語としての日本語学習支援も行う。

また、学習面で問題を抱える若者は、他の様々な社会的困難も同時に抱えていることがあるため、対象者の要望に応じ、本事業で連携する福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関・団体の適切な窓口を紹介し、支援が受けられるように誘導する。

【令和4（2022）年度「若者・外国人未来塾」の実施概要】

●高卒認定試験合格等に向けた学習支援、相談・助言

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	水曜日 17:30～19:30 土曜日 15:00～17:00	4月13日
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月1日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00 第1・第3土曜日 13:30～16:30	4月1日
半田	NPO法人ICDS	ちた地域若者 サポートステーション	水曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 (ただし、第4水曜日は 休館のため翌日木曜日 に実施)	4月2日
春日井	NPO法人 ワーカーズコープ	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00 木曜日 18:00～20:00	4月14日
一宮	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	一宮市立中央図書館	火曜日 17:30～19:30 土曜日 16:00～18:00	4月12日
蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	水曜日 13:00～17:00 木曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 【とよかわサテライト】 金曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00	4月2日
愛西	NPO法人 ワーカーズコープ	愛西市文化会館	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月19日
★知立	NPO法人 ふらっとほーむ	ふらっとほーむ事務所 (10月～) 刈谷市城町図書館	水曜日 16:00～18:00 金曜日 16:00～18:00	6月3日

★本年度追加地域

●日本語学習支援

(対象：日本語支援が必要な外国人等。内容：読み書きを中心に個別指導を基本とする。)

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	土曜日 15:00～17:00	4月16日
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	日曜日 10:00～12:00	4月3日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00のうち1 時間	4月1日
★蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	水曜日 13:00～17:00 木曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 【とよかわサテライト】 金曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00	4月2日

イ 若者未来応援協議会

学識経験者の助言のもと、就労支援機関をはじめ、福祉、保健、労働、その他関係機関・団体等と、効果的な連携・協働の在り方等について協議するため、県教育委員会生涯学習課が設置。対象者が必要とする支援先を相互に案内できるネットワークの構築を目指す。

- ・関係機関等に対する事業周知、及び、相互の連携・協力体制の構築を図るため、県レベルの委員で構成される**合同協議会**を設置。(年2回開催)
- ・各地域の実情に応じた支援ができるよう、各地域における関係機関・団体等の委員からなる**地域協議会**を設置。(各地域年2回開催)
- ・合同協議会は、研究部会の機能を加え、全ての実施地域の事業の在り方、事業の普及・啓発方策及び事業の評価等について総合的に協議することとする。

(2) 6か年の事業実績

ア 学習支援参加者（相談のみも含む。）

地域	実人数(下段：外国人内数)						延べ人数(下段：実施回数)					
	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29
名古屋	39	36	23	24	20	25	339	259	219	222	180	61
	3	0	0	0	1	8	83	86	66	68	69	30
豊橋	20	29	32	23	18	11	358	376	426	401	191	190
	13	21	24	13	7	0	84	87	58	69	67	59
豊田	29	34	35	30	14	9	245	420	528	371	102	154
	18	20	23	20	5	1	115	113	100	65	61	59
半田	17	10	5	3			122	151	66	47		
	0	3	0	0			84	91	67	55		
春日井	19	13	11	5			197	260	215	135		
	3	0	0	0			80	74	70	68		
一宮	7	4	4				86	23	24			
	4	0	2				82	74	60			
蒲郡	30	37	12				653	397	159			
	0	11	3				183	171	102			
愛西	9	4					127	76				
	3	0					79	63				
知立	19						223					
	4						81					
合計	189	167	122	85	52	45	2,350	1,886	1,637	1,176	473	405
	48	55	52	33	13	9	790	696	523	325	197	148

※H29～R 3は年間実績です。

※R 4 外国人国籍

名古屋 3 (ネパール 2、ヨルダン 1)

豊橋 13 (フィリピン 1、ブラジル 3、ペルー 9)

豊田 18 (中国 1、ネパール 1、パキスタン 1、フィリピン 2、ブラジル 8、ペルー 4、ボリビア 1)

春日井 3 (デンマーク 2、フィリピン 1)

一宮 4 (中国 1、ネパール 1、フィリピン 2)

知立 4 (ミャンマー 1、フィリピン 1、パキスタン 2)

イ 日本語学習支援参加者

地域	実人数						延べ人数(右側：実施回数)											
	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29						
名古屋	4	0	4	20	5	12	10	40	0	44	20	118	33	26	33	49	30	
豊橋	11	18	19				28	45	89	47	161	31						
豊田	18	20	24				160	115	268	113	300	96						
蒲郡	22						387	157										
合計	55	38	47	20	5	12	585	357	357	204	481	147	118	33	26	33	49	30

※R 4 外国人国籍

名古屋 4 (スリランカ 1、中国 1、ネパール 1、ヨルダン 1)

豊橋 9 (ブラジル 2、ペルー 7)

※ 豊橋の残りの2名は日本国籍

豊田 18 (中国 1、ネパール 1、パキスタン 1、ブラジル 8、ペルー 4、ボリビア 1)

※ 豊田の残りの2名は両親外国人、本人日本生まれ

蒲郡 22 (韓国 1、台湾 1、インドネシア 1、フィリピン 14、ブラジル 1、ペルー 3)

※ 蒲郡の残りの1名は本人日本生まれ、すぐフィリピンへ。2022年4月来日。

ウ 高卒認定試験合格者

地域	実受験者数						全科目合格者数						一部科目合格者数(延べ)						一部科目合格者実数					
	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29	R 4	R 3	R 2	R 1	H30	H29
名古屋	10	9	8	8	10	4	5	5	3	4	3	2	4	4	4	3	4	2	2	2	4	3	4	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊橋	1	2	8	7	6	2	0	0	4	3	4	1	2	3	5	3	2	2	1	2	4	3	1	1
	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊田	4	7	6	5	3	2	2	3	2	2	1	1	1	5	4	1	1	2	1	4	3	0	0	1
	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
半田	5	4	1	2			3	1	0	2			0	5	1	0			0	3	1	0		
	0	0	0	0			0	0	0	0			0	0	0	0			0	0	0	0		
春日井	12	7	4	2			5	3	1	0			3	5	5	0			3	4	2	0		
	0	0	0	0			0	0	0	0			0	0	0	0			0	0	0	0		
一宮	0	1	2				0	0	1				0	0	0				0	0	0			
	0	0	0				0	0	0				0	0	0				0	0	0			
蒲郡	3	1	1				2	1	0				1	0	0				1	0	0			
	0	0	0				0	0	0				0	0	0				0	0	0			
愛西	4	2					1	2					2	0					2	0				
	0	0					0	0					0	0					0	0				
蒲郡	0						0						0						0					
	0						0						0						0					
合計	39	33	30	24	19	8	18	15	11	11	8	4	13	22	19	7	7	6	10	15	14	6	5	4
	0	2	1	2	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
5か年合計	153						67						74						54					
	6						3						1						1					

【令和4年度 若者未来応援協議会 合同協議会委員名簿】

● 合同協議会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・教授
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
竹内 洋江	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
山下 智史	委託先	NPO法人いまから・理事長
鈴木 光行	委託先	公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田市青少年センター・所長
井戸 千尋	委託先	NPO法人ICDS／ちた地域若者サポートステーション・センター長
小楠 修平	委託先	NPO法人ワーカーズコープ 東海事業本部 事務局長
鈴木 法政	委託先	NPO法人青少年自立援助センター北斗寮・理事長
高須 了	委託先	NPO法人ぷらっとほーむ・副理事長
小笠原 潤	国・就労	愛知労働局職業安定部職業安定課人材確保支援係・業務補佐
山田 昌代	県・青少年	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課・課長補佐
太田 美代子	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課 多文化共生推進室・室長補佐
鮎川 征一郎	県・福祉	愛知県福祉局福祉部地域福祉課・課長補佐
三原 亜矢巳	県・保健	愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室・室長補佐
扇谷 めぐみ	県・就労	愛知県労働局就業促進課・課長補佐
近藤 哲史	県・教育	愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐
上野 賢司	県・生涯	愛知県教育委員会生涯学習課・課長

3 令和4年度「若者・外国人未来塾」の実施状況

名古屋地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

39人（継続7人・新規32人）

<居住地>

居住地	名古屋市	春日井市	北名古屋市	犬山市	大府市	安城市	県外
人数	32	2	1	1	1	1	1
うち外国人数	3						

国名	ネパール	ヨルダン
人数	2	1

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数	1	2	13	7	4	12
うち外国人数			2			1

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	6	18	4	2	9
うち外国人数	1				2

その他の内訳 中学在籍 1 専修学校在籍 1 大学 1 特別支援学校高等部卒業 2
 専修学校中退 1 大学中退 1
 中学卒業（ネパール） 1(1) 高校卒業（ネパール） 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数	10	3	2	6	18
うち外国人数	1				2

その他の内訳 学校の自習 1 高校進学 1 専修学校卒業 1 学び直し 2
 認定試験の合格（その後未定） 13(2)

オ 参加の経緯

インターネット（県サイト）、他機関からの紹介、テレビ・新聞、図書館で見た

カ 状況、ニーズ等

- ・高校中退後まもなく、高認合格を経て進学を目指すケース（主に10～20代、インターネット等で自身や家族で情報を見つけて参加）
- ・ひきこもりや、ネグレクト・虐待等家庭環境での疎外からの回復ステップとして、まず高認合格を目指すケース（主に20代、他機関からの紹介が多い）
- ・資格取得、専門学校への入学のためなどの基礎資格として高認合格を目指すケース（主に30代以上、主にインターネット等で自身や家族で情報を見つけて参加）
- ・発達障害や精神疾患などを抱えているため高校や大学に進学することができなかったが、高認を経て学び直したいと考えるケース（全世代、他機関からの紹介が多い）

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者 10 人：全科目合格者 5 人 科目合格者 2 人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
<p>中学・高校とまともに学校に行っていなかったけど、今英語ができるようになりたくて参加しています。参加できない時もあるけれど、行った時は丁寧に優しく教えてもらえるのとわかりやすいのとで続けられています。来年も参加したいです。（20代）</p>	<p>特になし。</p>	<p>中学校や高校に行けなくても、ここの学習会で自分のペースで勉強できます。高卒認定に受かれば、大学にも行けるし、就職するにしても高卒扱いで就職できます。学校以外の居場所づくりでもいいと思います。外に出る練習でもいいと思います。みなさんとても優しいです。</p>
<p>自分のペースに合わせて進められるので、効率よく勉強できてよかったです。（10代）</p>	<p>もっとこの事業を広めてほしい。</p>	<p>みなさん丁寧に優しく教えてくださるので、ぜひ参加してみてください！</p>
<p>とてもわかりやすくおしえてくれるのですごくわかりやすいです。（10代）</p>		
<p>小学校レベルの学力の人でも、ていねいに小学・中学・高校レベルの勉強法を教えて頂いたのは、自信を取り戻す助けになりました。（30代）</p>		<p>この日本社会を生きる上で、勉強で身につけた物事の知り方・解き方が自分を助けてくれています。また広い世界を知ること、楽しみを持つこと、極めることにも勉強の成果が助けてくれています。世</p>

		間に振り回されたくないなら勉強しよう 世間を知りたいなら勉強しよう ゆとりが作りたいなら勉強しよう
勉強を家でやることなく、ここにきて、学校で習った事の復習をしたりしていて、すごくわかりやすく期末テストの時もすごく助かりました。(10代)	ないです。	ここに来て、テスト勉強とか授業の復習もできるのですごくわかりやすく、助かります。
わからないところをていねいに教えて頂いて、とても助かりました。(10代)	とくに無いです。	気軽に参加してみてください！とても話しやすい方たちばかりです。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生、大学院生 (11人) ・高校非常勤講師 (1人) ・元教員 (2人) ・法人スタッフ (2人)
スタッフの募集方法	・大学生スタッフによる後輩等の紹介	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ同士のコミュニケーション (今いるスタッフが続けられる仕組みづくり) ・新規スタッフへのOJT 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・自治体関係、図書館	チラシデザインの洗練
〃	・参加者を紹介した支援者等	別の参加者のきっかけとなった事例 (複数)
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応における目標設定の多面化 (何をいつまでに目指したいのか、高認合格以外の選択肢も提示した上でじっくり考える) ・タブレット端末を用いてメディアによる学習の補助、NHK高校講座等の自宅学習方法の提示
--

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・認定試験を経験した参加者が、スタッフとして協力してくれることになった（運営者） ・中学レベルの問題集等を増やして、参加者にあった学習の提案をより柔軟にできるようになった（運営者） ・勉強というコミュニケーションを通して、参加者の居場所となっている実感をもつことができた（スタッフ）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数の波があり、日によって支援の形が変わる。大事な試験直前に十分な個別対応ができなかったことがもどかしい（スタッフ） ・特定のスタッフには心を開いてくれる参加者がいる。多くのスタッフと関われるような雰囲気をつくる必要がある（スタッフ） ・子どもを連れて参加される方への対応に限界がある（スタッフ） ・他機関に「つなぐ」連携にどこまで踏み込むことができるか（運営者） ・来なくなってしまった参加者へのアプローチ（運営者）

7 運営者の声

メディアで取り上げられたことで新たな参加者が集まった。認定試験合格を目指すだけでなく、明確な目標が定まるわけではないがまず勉強したいという思いに応えたり、学び直しをしたいという参加者もいたりする。ニーズにあわせた個別の対応を探りながら、学習会全体の空気をつくることにも今年度はスタッフで意識が向いた部分があったように感じている。

予算やスタッフの都合に制約があり、継続して同じスタッフに入ってもらえないため、参加者情報の引き継ぎに苦勞することもある。情報共有の仕方を考えたい。

参加者ピックアップコラム

（団体名） NPO法人あいち・子どもNPOセンター

Aさん（30代 女性）

昨年度から継続して参加。高校2年で中退。子育てをしていることもあり、安定した職に就くために認定試験を受けたいと考えて参加。子育てと両立しながら、2年間をかけて全科目合格。この先は医療事務職を目指していく方針。

Bさん（20代 女性）

昨年度から継続して参加。小4から不登校で、不認可の高校で学びながらこれまで認定試験を受験してきた。本事業では残る3科目について支援を求めて参加。毎回欠かさず参加し、11月の試験で全科目合格。12月からは就職活動に励んでいるとのこと。

Cさん（30代 男性）

今年度初めて参加。特別支援学校を卒業し就職しているが、一般の高校と同じ内容を学び、大学に行きたいという思いがある。学習の目的や進路についてスタッフとも話し合いながら、現在はまず認定試験の国語、日本史を目指して学習している。

豊橋地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

21人（継続10人・新規11人）

<居住地>

居住地	豊橋市
人数	21
うち外国人数	13

国名	フィリピン	ブラジル	ペルー
人数	1	3	9

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数	3	6	3	5	1	3
うち外国人数	2	5	2	4		

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	2	3	2	1	13
うち外国人数	2	2	1		8

その他の内訳 小学校在学 2(2) 中学校在学 3(2) 中等学校（ペルー：5年制）在学 1(1)
 中等学校（ペルー：5年制）卒業 3(2) 専門学校卒業 1 大学在学 1
 大学卒業 1 不明 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数			4	1	16
うち外国人数			2		11

その他の内訳 奨学生選抜試験対策 1 高卒認定試験 3(2) 日本での生活のため 3(2)
 学校の勉強についていくため 8(6) 語学の勉強（日本語・英語）1(1)

オ 参加の経緯

口コミ、他機関からの紹介、HP・SNS（Facebook）、サポートステーション、家族、以前の参加者が再び参加

カ 状況、ニーズ等

- ・学習支援対象者は高校卒業程度認定試験（以下、高認試験）受験者と日本語学習者を核としているが実際には幅広く募集しており、成人の学び直しや中学生なども対象である。小学生低学年などは支援の難しさがあるために現在は受け入れに消極的である。
- ・現在の支援対象者は、日本語の読み書きにやや難があるために学校での勉強についていくことができない外国人が中心となっている。
よって学校の勉強をサポートすることと日本語の学習をすることが事実上混在している。これら対象者の支援は「可能であれば高校に入学させ、学習をサポートする」「高校在学が難しくなれば、本人（あるいは保護者）と相談の上、高認試験のサポートに切り替える」という方式をとっている。
- ・現状では高認試験受験を目指す対象者は2名（今年度の試験が終わった後に新たに2名）であるが、いずれも外国にルーツを持っている。
- ・スタディサプリの利用が可能になったために、対象者が自習できる時間が増えている。

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者 1人：科目合格者 1人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
教室の雰囲気が良い（10代）	より実用的なところから優先的に学びたい	楽しいですよ
複数の教科を学ぶことができる（20代）	開所日を1週間あたりもう1日増やしてほしい	
スタディサプりを個人で利用できるので集中できる（20代）	このような事業が国内にもつとあれば良いと思う	大人になってから学べる場所は少ないので、助かります

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	4人 ・学習支援員（相談員兼務）（3人） ・通訳（1人）
スタッフの募集方法	・現在募集は行っていない
スタッフ確保のための方策	・他機関との情報交換による

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
説明会での発表	・おたまじゃくしの会	大学生の奨学金試験を支援した
インターネット	https://npoumakara.org/gakusyu/gakusyu.html	高校を卒業しているが、小学生の学習に若干の穴があるという対象者が登録に至った。

ロコミ	・外国人コミュニティの中心人物	様々な事情で学校の勉強についていけなくなった外国人の中高生が多数参加するに至った
-----	-----------------	--

5 取組の工夫

学習対象者は幅広く募集しているが、現状では外国にルーツを持つ中高生が多く保護者が対象者の学力を把握できていないケースが多い。今年度、当団体では時おり保護者と話し合う時間を設けた。この際にタブレット端末を用いて通訳に手伝っていただいた。

また、習熟度が人によって大きく異なるために個人がどの程度まで理解しているのかをスタッフ間で共有している。

スタディサプリは日本語を理解できている対象者に対しては非常に有用であり、来年度の高認試験を目指す対象者が利用している。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験受験者一部合格 ・ロコミで学習が困難になっている外国人生徒が数名参加 ・インターネット広報により、学び直しを目的とする成人が参加
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・予約制ではないので人数の多寡に波があり、スタッフ、部屋の確保などに課題が残る。他地域がどのような体制になっているかを参考にしたかったが、時間の都合上全てには伺えなかった。 ・アクセスの問題。駅が近くないので保護者の送迎が必要になる。 ・楽しく話しながら学びたい学習者と、もう少し静かに集中したい学習者に分かれている。部屋だけでなく曜日を分けるなどの工夫が、来年度以降の課題となる。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人 いまから

Yさん (12歳 女性)

「私の娘は小学1年生の漢字もわからない。このままでは大変だから助けてほしい。」

外国人コミュニティの中心的な人物からの紹介で、こんな悩みを持っている母親からの相談を受けました。「よく使う漢字」は「いろんな読み方がある漢字」であるため、小学1年生の漢字が一番難しいのかもしれません。ここで挫折してしまう外国人は案外多いようです。

まずは勉強する気になってもらうところから始めなければ……と思ったのは杞憂でした。

誰よりも早く来て黙々と勉強し、家でも予習を欠かさない彼女を見ていると、なぜこれだけ努力できる子の学習が遅れてしまったのかと疑問に思いました。

学習支援というのは、必ずしも付き添って勉強をサポートするだけではなく、『本人が自分で勉強し、学力を伸ばすまでのきっかけ作り』、あるいは、『場所を提供する役割も兼ねている』ということ、我々スタッフも学ぶことができました。1年後、あるいは2年後に彼女がどれだけの読み書きができるようになっているのか、とても楽しみです。

豊田地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

29人（継続11人・新規18人）

<居住地>

居住地	豊田市	東郷町
人数	27	2
うち外国人数	17	1

国名	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ペルー	ボリビア
人数	1	1	1	2	8	4	1

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数	3	13	9	3		1
うち外国人数	3	9	4	2		

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	2	3	9		15
うち外国人数	1	1	4		12

その他の内訳 小学在学 3(3) 中学在学 10(8) 通信制高校在学 1 大学進学準備 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数	2				27
うち外国人数	1				17

その他の内訳 高校進学 1(1) 不登校で遅れた勉強を取り戻したい 1 高校卒業 3(2)
 学力補充 16(12) 高校受験のため 1(1) 高卒認定試験 5(1)

オ 参加の経緯

紹介（姉、役場、高校の先生、知人、参加者、支援員）、自分で調べて、Twitter、T I A（豊田市国際交流協会）

カ 状況、ニーズ等

- ・小学校からのいじめで中学校を卒業するまで、不登校。夫の勧めがあり高卒認定取得を目指し参加
- ・家族の病死がショックで中学2年生の途中で一時期不登校になった。現在復学したが勉強の遅れを取り戻すために参加
- ・本来の目的の人(高卒認定試験受験者)が少ない

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
楽しく通えています (10代)		わからない問題をわかるまで丁寧に教えてくれる

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6人	・教員OG・OB (4人) ・大学生 (2人)
スタッフの募集方法	・現在募集は行っていない。	
スタッフ確保のための方策	・教員OBからの紹介	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
広報とよた	・市民	参加者や先生、他の福祉関係機関からの紹介で来る人が多い。未来塾対象者本人よりも対象者の周辺の人に周知する意味で効果があると思われる。
Twitter	・Twitter	
ちらし	・市内公共施設	

5 取組の工夫

支援員はシフト制で毎回異なるが、日報などで情報共有して、生徒がいつ来ても対応できるよう取り組んでいる。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の成果が出た。令和4年度高卒認定受験者5名中2名が全科目合格、3名が科目合格。 ・不登校気味だった参加者が、本事業内で支援したことにより、学校に行けるようになった。 ・家庭環境により、来館できない参加者にオンラインを使った指導ができた。 ・学習支援だけでなく、居場所的要素（お楽しみ、クリスマス会などを実施）を取り入れた。その際には、参加者の個人や家庭環境の悩みを打ち明けることがあった。
課題	<p>【参加状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に通えていない参加者が多い。 <p>【指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の学習の進捗状況が支援員間で日報などを用いて共有はしているが、ミーティングなど意見交換の場もあるほうが、より良いと思う。 <p>【周知について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を欲している方に本事業をどのようにPRしていくのが得策か検討が必要。 <p>【予算について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年を通して予算化されていないので年間で継続できない。

7 運営者の声

高卒認定試験の受験者が少ないので、周知の必要性を感じている。高校に通っている外国籍の生徒や日本語は問題のない生徒で進級に不安のある生徒を、多く受け入れており、高校を中退してしまう前に支援ができていたのは、とても意義があると思う。

継続して通えていない参加者は、家庭環境や交通手段、意欲など複合的な理由で継続できないと思われる。特に、学業が苦手な参加者は、学習すること自体を忌避する傾向があるため、未来塾の参加に意欲的になれない場合がある。すべてを解決することは難しいが、お楽しみ会を開催したり、書初めを実施したりすることで、参加しやすいように工夫した。お楽しみ会があることで、しばらく参加していなかったが、また未来塾に参加するきっかけとなったと言ってくれた参加者もいたので、今後も負担にならない程度に開催していきたいと考えている。

参加者ピックアップコラム

（団体名） 豊田市青少年センター

Nさん（17歳 女性）

姉の病死にショックを受けて中学を一時期不登校になっていた。支援員の紹介で未来塾に参加するようになり、現在は高校に通うことができている。今でも定期的に未来塾に参加している。

他の未来塾の生徒とも仲良く雑談できている。高校では書道部に所属しており、今年の年明けには、日本語学習支援の参加者に書初めを教えてくれた。Nさんのおかげで、教室の雰囲気がとても良くなっているように感じる。

大学生になったら未来塾の支援員になりたいとも話しており、未来塾がNさんにとって居場所となっている様子である。

半田地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

18人（継続 5人・新規 13人）

<居住地>

居住地	半田市	大府市	東海市	阿久比町
人数	4	2	2	2
うち外国人数				
居住地	東浦町	武豊町	豊明市	碧南市
人数	3	2	1	2
うち外国人数				

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数		2	8	4	1	3
うち外国人数						

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	7	7	1	1	2
うち外国人数					

その他の内訳 高校休学 1 高校中退予定 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数		1		2	15
うち外国人数					

その他の内訳 認定試験の合格（その後未定）10 高校卒業 1 居場所 2 検討中 2

オ 参加の経緯

他機関等からの紹介（母親、友人、社会福祉協議会、児童相談所、サポートステーション、市の相談窓口・担当課、高校の先生・SSW（スクールソーシャルワーカー）、臨床心理士）

カ 状況、ニーズ等

- ・半田地域が管轄する5市5町では令和4年度の学習支援希望者が過去最大人数となり、周知が各自治体に広がりつつあると思われる。

- ・次年度の進学先希望でもあったように通信制が進路先高校として人気となっているが、実際通学が少ない分、レポートなどわからず聞けないまま単位を落とす、あるいは、やる気の低下から不登校につながるケースが多く考えられる。中退者や中卒者のニーズから、通信制に通いながら学べる居場所としてのニーズが増えるのではないかと考えられる。
- ・現在、登録まで至っていないが、学習支援事業を入口として様子を見て、未登録として来所されている予備軍も数名いる状況である。
- ・地域協議会においても話題に挙がったが、困窮者へのスタディサプリの使用により、工夫して支援できる可能性もあるが、自分で自宅において自主的にできないことが課題である場合など、困窮のみでなく二重三重の課題がある場合が多く、今後の仕組みづくりをしていく必要があると考える。

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者 6 人：全科目合格者 2 人 一部科目合格者 1 人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
もっと塾のようながちがちの感じがしていたが、居場所として使わせてもらえそう。（22 歳男性）	プログラミングを学びたい	支援員が優しい
高卒認定がとれたあと、なんとなく卒業でもうこられないかと思ったけど進路について話に来られ、大学受験や論述入学について教えてもらった。（18 歳男性）	進学するとしたらの情報が欲しい（オープンキャンパスはネットで調べた）	ここへ来ると楽しい
人間関係でうまくいなくて、学校をやめてしまったが高卒認定をとっていきたいと思っている。自分のペースで参加できるから続きそう。（16 歳男性）	まだわからない	父親に通ってみてどうだったかを話したら、会社の同僚の人に紹介していた、実際その子とはあったことがないが通い始めたらしい

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3 人 (2 人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 26 歳女性 支援歴 3 年 塾講師経験あり (1 人) ・ 22 歳男性 支援歴 2 年 日本福祉大学生 (2 人) ・ (現在 2 名引継ぎとして日本福祉大学生 2 名)
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各参加市町会議にて該当する人がいないかヒアリング ・ 日本福祉大学の学生課に依頼してアルバイトを募集 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉学部でゼミが同じ仲間や後輩から興味のある人がいないかヒアリングして人を繋いでいく 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ設置&説明	・各市町村役場の商工、産業、子育て支援課、社協窓口、生活援護課、福祉課	社協、福祉課、子育て支援課、学校教育課より見学や登録あり
社会福祉協議会会議	・会議にて、内容の周知とつなげていただくタイミングを話す	問い合わせのみ
図書館、体育館へチラシの設置	・施設利用の家族、親族の目に留まるような場所に置く	それを見た友人から聞いた方が1名つながってきた

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの支援は現在進行形につき、具体的成果はまだない状況であるが、今後スタディサプリの話をしてそれで参加につながった人がいる為、支援員ももっと使用の幅を広げる課題がある。タブレットは実際に耳だけではなく目からの情報の処理能力が高い人がいらっしゃるため、説明などにも使用している。歴史の長い流れなどは短編の動画なども活用可能である。
--

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定を目指された人が、個人のペースもあるが確実に合格していることは大きな成果である。個人のペースに合わせた計画を支援員とともに行っている成果である。 ・居場所的要素の強かった利用者が周りの受験者に刺激を受け受験をはじめたという例があった。居場所目的ではあるが環境づくりもとても大きな要素と考え、支援員とMTGを行い支援員が全員共有認識を持てるようスプレッドシートで様子を共有している成果。 ・広報については、問い合わせの具体的な件数のカウントは取ってはいないが、つながらなかった人も含めて周知が広がっている実感は成果と言える。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所との連携案件などでは、学習支援の利用者は担当の支援員との面談で相談も出る可能性があり、今後各施設からつながってきた場合の留意点をまとめていく必要がある。 ・周知が広がったものの、実際の内容や利用の仕方まで詳細に把握が出来ていないと思われるため、今後説明できるチラシもしくは資料添付なども考えていく必要もある。説明を実際行っても時期が空くと忘れてしまうなどがあり、踏み込んだ広報活動が課題。 ・生活困窮者や中卒の方の多い地域などについての支援方法がオンラインのみでなく、タブレットの効果的な利用方法など仕組みを作っていくことが課題。 ・オリジナリティ支援に近い内容が求められている中、アルバイト支援員の判断や知識の成長も必須となっていくと考えられる。

7 運営者の声

<p>ちたサポの職員の人手不足によって学習支援の紹介にまで手が回らず、就労が中心となりがち傾向がある。職員の学習支援の積極的参加の促進を実践していくために、資料を作成し共</p>

通認識を図っていく必要があると考える。ただし、その際の経費計算が非常に複雑となり按分する根拠が会議などわかる資料があるわけでもなく難しい部分がある。しかし、貧困の連鎖を食い止めるきっかけや、長期ひきこもりにならない様に進路未決定者の積極的受け入れが今後必要な役割の事業とも感じているため、他の施設や団体との連携を図り今後も広めていくことが必須である。

他にも、進路未決定者に学校で円滑な紹介が出来るために学校の現場への周知の必要が感じられる。まず、県の教育委員会のお力添えをいただき、拠点のある半田市から学校教育課を通して今後校長会に参加し、学校側への広報活動に務めていくことに重点を置いていく。次年度も受託できた際はそこへの周知に力を入れていきたい。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人ICDS

Hさん (16歳 男性)

Hさんは母親に連れられてこられた。中学校を卒業するが、小学校の高学年から不登校である。毎日今どきの子のようにゲームをするわけでもなく、小説を書いたりして過ごされている。ストレスがたまると文字化していると、様子を面談で話してくれた。もともとコミュニケーションが苦手なようだ。起きる時間もバラバラで昼過ぎになることも多く、自由ではあるが先の見えない不安の中にある。そんな中、広報をみて母親が相談に来られた。生活改善しないと進学もアルバイトも難しいが、過去に家出をするなど突発的行動もみられたとのこと。友人関係はなく、面談中も中々目が合わないなどの特性が見られたが、家族以外の人との話は久しぶりで緊張も当然あったようだ。本人が納得して通ってくれるだろうか不安であったが、学習したい気持ちがあることを話してくれた。ここへ来るまでに母親といろいろ話し合ったようで心ではもう通うと決めてきたとのことだった。だからか同伴でなく一人で電車で通うことも意外とすんなり出来るようになり、家ともう一つの居場所として活用する目的での登録をして通うこととなった。

半田地域での学習支援は、来た時に今日の目標を振り返りシートに記載してもらい、帰るときに感想を書いて終了となる形をとっている。通い始めて半年以上「無い」としか記載してくれなかったHさん。無理に書かせる指導はしない様に支援員と決めて、いつかそれ以外の感想を書いてくれる日を楽しみに待つことにした。ある日何気なく終了して提出してもらった振り返りシートに「古文むずい」と記載があった。アルバイト支援員とともに静かに喜んだ。書いてくなくても書いてなくても、その日担当した学習支援員からのコメントと最後に私のコメントを入れて返却し次に来てもらったら見てもらえるようにしている。コメントにありがとう！！と書きたい気持ちを抑え、古文難しいよねと感じた気持ちに寄り添ったコメントで留めておいた。

Hさんが通い始めてしばらくすると、高卒認定受験の申請用紙が来て対象者に説明や留意点など話す機会があった。周りに高卒認定を目指している人がいる環境であったからか、自分も申請用紙が欲しいと話があったと支援員から相談を受けた。嬉しい相談ではあったが、支援計画の内容では学習支援目的は確か居場所として生活改善も含めたそんな目的であったはずだった。

認識がずれていたのかと母親に急いで連絡をして、こちらの認識が違っていましたか？と、お伝えするなり母親は「え？そうなの？え？知らないです。私も認定試験は受けれる話は過去にしたことがあったけど、それをやるとは聞いていないです。」とのことであった。

本人はやる気になっているし、しかし高卒認定の受験対策をしていない中であったため、どうしたらよいのか迷ったが、8月ではなく11月を目指してもらおうと考えてHさんには正直に試験対策をしたいとこちらが思っていなかったことを詫言、その準備がまだ足りないから11月に設定して支援員と一緒に何を受けるか計画するのはどうかと提案した。Hさん自身が自分で伝えること

も大切であったと思うが、今回の大事な課題解決はそこではなく目標設定が自然と通う中で変わっていたことの方が大切だと考え、そこはシートに気持ちを書いてもらう促しをした程度にしておいた。

そして11月高卒認定試験を2科目受験して無事合格された。主体的に決められたところは素晴らしく、自信につながったことであろう。そして次の8月に向けて、学習を再スタートさせる。

学習支援のよいところは、勉強だけではない個々の成長が感じられ自信につながりやすいところだ。正解があるところが社会とは違うところなのかもしれない。今後も支援員とともに感想の文字数が増えることを楽しみに支援していく。

春日井地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

19人（継続 7人・新規 12人）

<居住地>

居住地	春日井市	小牧市	名古屋市中川区	名古屋市中村区
人数	15	2	1	1
うち外国人数	3			

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数		2	10	3	2	2
うち外国人数		2			1	

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	4	8	5		2
うち外国人数	1				2

その他の内訳 中学校在学 2(2)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数	3	2	1	2	11
うち外国人数		1			2

その他の内訳 高卒認定試験 8 高校卒業・進学のため 1 高校進学のため 2(2)

オ 参加の経緯

紹介（サポステ、スクールソーシャルワーカー、市役所、利用者、知人、NPO法人、保護観察所、保健施設、自立支援ホーム）、チラシ、TV、愛知県教育委員会のHP

カ 状況、ニーズ等

- ・ 定時制高校に在学中、高校卒業のため学習会に参加している。
- ・ 専門学校進学のため、高卒認定資格を取得したい。
- ・ 高校進学、再入学（全日制、定時制、通信制）を目指して学習会に参加している。
- ・ 全日制高校に在学中だが不登校気味。大学進学のため、高卒認定資格を取得したい。
- ・ 通信制高校1年時に中退。小学校の頃から不登校で高校に進学するも学校に馴染めず。

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者 12 人：全科目合格者 5 人 科目合格者 3 人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
学習環境と人が良かったので、勉強を続けることが出来た。（10代男性）	—	参加してみたい。
最初は緊張したが、今はリラックスして学習会に参加している。楽しく勉強できている。（10代女性）	夜遅いと帰り道が怖いので、もう少し開催時間が早いと良い。	学校とは雰囲気が違う。最初は緊張すると思うが、参加してみたい。
今までは、勉強が嫌いだったが、学習会で学ぶことが楽しかった。（10代男性）	平日は働いているので、休日に開催をしてもらいたい。	学習会に参加して、学ぶ楽しさを知って欲しい。
学習会は、時間を決めて勉強できた。試験のプレッシャーはあったが、自分の中で基準がわかった。（20代女性）	自分の調子を見ながら、オンライン学習支援を受けてみたい。	踏み出した一歩が、これから先の大きな一歩になるので、勇気をもって踏み出して欲しい。
高卒認定試験に一部科目合格することが出来た。一回休んでしまうと気まずい。（20代女性）	—	とにかく参加して欲しい。
学習支援員の方が、自分用に教材を作成してくれたのが嬉しかった。（20代女性）	—	最初は緊張すると思うが、雰囲気が良いので参加して欲しい。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7人 <ul style="list-style-type: none"> ・大学生 1 人（学習塾での指導経験者） ・社会人 6 人（学習支援事業や塾での指導経験者）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井若者サポートステーションや近隣の大学へチラシの配布や掲示を行った。 ・高卒認定資格を取得した学習支援利用者より、支援スタッフになりたいとの希望があった。
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・春日井若者サポートステーションより支援スタッフ希望者の紹介があった。若者サポートステーションとの連携は、有効だと感じている。 ・地域団体への広報活動

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の相談窓口 ・保健所の相談窓口 ・春日井地域協議会の参加団体 ・高齢者介護居宅支援事業所 ・春日井若者サポートステーション ・学校スクールソーシャルワーカー ・市民活動支援センター ・適応教室 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布を継続したことにより、対象者へ情報が届き、相談や利用に繋がったケースがあった。 ・相談窓口から、対象者へチラシを配布し、相談や利用へ繋がったケースがあった。 ・春日井若者サポートステーションの繋がりから、近隣自治体の関係機関を繋いでいった。 ・春日井市民生委員・児童委員会長連絡会で事業説明の時間をもらった。 ・スクールソーシャルワーカーの方より、保護者へ情報が届き、相談・見学に繋がったケースがあった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語支援が必要な方への広報活動
SNS	・Twitterにて学習会情報を発信	・学習会の様子を発信することができた。

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の学習状況に合わせて、時間割を作成し、一人ひとりに合わせた支援を行った。 ・支援スタッフ同士のコミュニケーションの時間や支援員用ノートを作成し、学習状況の情報共有を行った。 ・パソコン、タブレット端末を活用して、学習動画を用いた学習支援を行った。 ・パソコン、タブレット端末を使用して、オンラインの学習支援を行った。 ・高校入試対策として、面接や作文の練習を行った。 ・参加者の特性に合わせて、会場配置を工夫した。 ・中学3年生の受験勉強にスタディサプリを使用した。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度は、高卒認定試験を12名が受験し、全科目合格5名、一部科目合格3名という結果となった。利用者本人や保護者の体調不良により、受験することができなかったケースもあったが、高卒認定試験受験者数が増加している。 ・2022年度は、学習支援の登録者19名と利用者数が増加した。 ・学習支援参加者が、高卒認定資格取得後に支援スタッフとして活躍したケースがあった。 ・精神的に不安定な参加者等、個別対応が必要なケースがあり、支援スタッフと相談しながら、学習支援を進めることができた。 ・支援スタッフが、主体的に支援方法や運営について、提案や工夫をするようになった。 ・支援スタッフの中には、社会での躓きや辛い経験をした方もいるが、学習支援に関わることで自信をつけて、就職など次の目標に向かう姿が見られた。 ・高卒認定資格取得後の就労、職業訓練などの相談をサポートステーションに繋げている。 ・関係機関や地域団体より、参加者や相談者を繋いで頂いた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席が続く参加者への学習支援の方法や働きかけ ・学習支援員のスキルや質の向上 ・利用者の個別課題連携先の開拓

7 運営者の声

2022年度は、4月14日より学習会を開始した。前年度事業終了後に自主学習会を開催していたため、6名の参加者が継続して学習会に参加することとなった。

支援スタッフも昨年度より、継続して関わりを持っており、余裕を持ったスタートとなった。

4月から9月にかけては、関係機関や保護者からの紹介や相談、参加者本人が来所し、学習会へ繋がるケースがあり、この期間に7名が増加している。10月から1月にかけて参加者が6名増加したが、その中には、学習会の卒業生が進学を目指して学習会に参加するケースや高校進学を目指している方が3名参加している。

2022年度の参加者は、精神的に不安定な方や御家族が体調を崩している方も多く、学習会への継続的な参加が困難なケースもあった。学習支援だけではなく、相談機関との総合的な支援体制、連携が必要となっており、参加者の状況確認を行いながら対応を行った。

2022年度の高卒認定試験では、12名中5名が全科目合格、3名が一部科目合格となった。受験者の中には、体調不良や精神的な不安で受験できなかった方もいたが、次回の高卒認定試験に向けて計画を立てながら学習を進めている。

全科目合格者は、次の目標（就職・進学など）に向かい、学習会を卒業した。卒業にあたっては、春日井若者サポートステーションと連携し、卒業生の就職相談を行っている。

2022年度本事業では、参加者数が昨年度よりも増加したこと、参加者の目標（高卒認定資格取得、進学、就職、学び直し等）を達成することが出来たことが大きな成果となっている。

また、参加者だけではなく、若者サポートステーションの紹介で事業に参加した支援スタッフの中にも、参加者との関わりから自信を取り戻し、就職に向かう姿も見られた。

本事業は、学習支援の場だけではなく、利用者、支援スタッフの一つの居場所として機能している。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人ワーカーズコープ

Aさん(25歳 女性)

2019年より学習会に参加し、2021年度に高卒認定資格を取得したAさん。

学習会参加当時は、看護師になりたいとの希望があり、高卒認定資格取得後に看護学校への進学を考えていた。

学習会卒業後は、アルバイトをしながら勉強を続けていたが学習をする環境がないとのことで、2022年10月に学習会に参加するようになった。

学習会では、受験科目の中心に学習支援を行い、会場に來れない日は、パソコンを活用してオンラインで学習支援を行った。

願書など学校の提出書類も一緒に確認をしながら支援を行い看護学校を受験することが出来た。

試験結果は、不合格であったが来年度の受験を目指して、継続的に学習会に参加している。

一宮地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

8人（継続2人・新規6人）

<居住地>

居住地	一宮市	稲沢市
人数	7	1
うち外国人数	3	1

国	中国	ネパール	フィリピン
人数	1	1	2

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数		3	2	1	1	1
うち外国人数		3	1			

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	2	4	1		1
うち外国人数	2	1			1

その他の内訳 中学在学 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの。）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数		1	1		6
うち外国人数					4

その他の内訳 日本語で会話がしたい。来年度、定時制高校を受験したい。 1(1)

高校進学希望 2(2) 高卒認定試験受験（その後未定） 3(1)

オ 参加の経緯

チラシ、紹介（一宮市役所、愛知県被災者支援センター、友人、国際ビルセンター）

カ 状況、ニーズ等

- ・ 中学卒の外国籍参加者は高校受験（外国人生徒等選抜、定時制）に向けて、日本語の日常会話と学習言語の習得を目指して参加している。しかし、後者のレベルが前者に比べて高く、苦勞している。また、日本語での作文の課題にも四苦八苦している。
- ・ 日本人の高校中退者の参加者は高卒認定試験の受験を目指して参加している。精神的な負担が大きいのか継続できていない。
- ・ また、一念発起して高卒認定試験の受験を目指して見学に来た日本人の高校中退者はそれ以後、参加できていない。

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者 0 人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
外国籍の参加者（10代）	日本語の習得と高校受験を目的に参加。日本語の会話が理解したい。	

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7人 ・ 現役大学生（2人） ・ 大学卒業生（1人） ・ 退職教員（4人）
スタッフの募集方法	・ 他の学習支援スタッフからの紹介 ・ 元の職場への依頼・声かけ
スタッフ確保のための方策	・ 知人を介しての勧誘

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
案内チラシ	・ 一宮市役所とその外郭団体	青少年センターから紹介あり
	・ 近隣市町村（稲沢市）とその外郭団体	
	・ 一宮市立図書館や近隣の図書館	チラシを見ての見学者あり

5 取組の工夫

外国籍参加者に対して、ポケトークやスマホの翻訳アプリを活用した。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none">・外国籍参加者が高校受験することが出来た（結果は現在、出ていない）。・支援スタッフが増えた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・本来、担っている支援の枠を超えた支援をしないと現実的にはサポート出来ない。特に、外国籍参加者の言葉の壁、保護者が仕事で忙しく子どもの世話まで手が回らない。スタッフの個人的負担に掛かっている。・保護者や本人が知らないために、本来ある行政サポートに繋がられない。・参加者の情報を行政と情報共有しようと参加者を通じて試みたが、「個人情報のため共有できない」と断われた。分からないわけではないが、本来なら該当者のことを考えて行政側が私たちに尋ねてきて良いと思うのだが・・・。

7 運営者の声

昨年から外国籍の参加者が増えてきた。学習支援のスタッフにも日本語指導についての研修が必要だと思う。例えば、“三平方の定理”を知らないと思い説明していたら、内容は分かっているが、日本の用語が分からなかっただけとか、分数を日本では分母から読むが、現地では分子から読むなど基本的な知識がスタッフに必要である。

蒲郡地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

30人（継続10人・新規20人）

<居住地>

居住地	蒲郡市	豊川市	幸田町	西尾市	豊橋市
人数	18	6	4	1	1
うち外国人人数					

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数	1	14	7	2	1	5
うち外国人人数						

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	3	7	4	1	15
うち外国人人数					

その他の内訳 小学校在学 1 中学校在学 13 大学卒業 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数	1			2	27
うち外国人人数					

その他の内訳 小学校の学習補助 2 中学の学習補助 12 高校の学習補助 4
英語の勉強（自己啓発） 1 実用数学技能検定2級に合格（自己啓発） 1
高校進学に向けて 1 高卒認定試験 3 高卒認定試験検討中 1
進路相談 2

オ 参加の経緯

定時制通信制高校説明会、紹介（中学校、あすなろ教室（適応指導教室）、サポートステーション、サポートステーション（実兄がサポステ利用者）学習支援員（スタッフ）、北斗寮（委託団体）、利用者、生活支援センター、）、インターネット、母親からの相談、チラシを見て

カ 状況、ニーズ等

- ・保健室登校は自習主体で、一人では教科の勉強が進まないのここを利用している。特に英語、数学、理科等は一人では難しい。
- ・高校中退のため、高卒認定試験を取りたい。
- ・検定試験（資格の取得や数学検定などの）受験のため

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者3人：全科目合格者2人 科目合格者1人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
中学校の出席扱いになるのがよい。 (10代)	—	(勉強したい内容などが) 割と自由。
教えてもらえるのが楽しい (30代)	授業時間を増やしてほしい。	
パソコンのエクセルと算数などがやれてよかったです (10代)	—	自分の苦手なことを教えてもらえる。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育教員OB (1名) ・塾講師経験者 (教員免許保有) (1名) ・現役家庭教師 (1名) ・元役員 (教員免許保有) (1名) ・若者自立支援経験者 (1名) ・有償ボランティア (1名) ・心理カウンセラー (1名)
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・サポステスタッフからの紹介 ・チラシ (リーフレットを見て活動に興味をもった) 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育OBの知り合い ・サポステスタッフの知り合い 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布または訪問による説明等 (来所も含む。)	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者 (19ヶ所) ・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者 (16ヶ所) ・蒲郡市内図書館 	<p>各機関・団体の責任者または担当者レベルでの事業の周知ができた。昨年度より各機関等からの紹介が増えた。</p> <p>利用者の悩み事 (進路相談等)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川市内図書館及び生涯学習センター ・豊川市市民協働国際課（訪問） ・豊川市国際交流協会ラテンアメリカ部会（訪問） ・豊川市医師会（訪問） ・愛知県立蒲郡高等学校（定時制）（訪問） ・愛知県立豊橋工業高等学校（定時制）（訪問） ・額田郡幸田町教育委員会学校教育課（訪問・来所） ・精華学園高等学校豊橋校（訪問） ・蒲郡市内の中学校（7校）（訪問）※ 	<p>を受けているうちに、関係する学校や機関へスタッフが出向いて話をすることもあった。その際、各学校や機関等の方々へ本事業の周知ができた事例もあった。「こんな事業があることを知らなかった。」という声が多かった。</p>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者未来応援協議会（豊川市、蒲郡市）2ヶ所 	<p>協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当者レベルでの顔合わせができた。</p>
北斗寮として参加した会議等において本事業の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市不登校対策協議会 ・豊川市子ども・若者地域支援協議会 ・豊川市ひきこもり家族教室 ・刈谷市ネットワーク会議 ・西尾市子ども若者支援協議会 ・東三北地区教育相談部会 	<p>対面またはZOOM等で各会議等へ参加。本事業の説明や学校連携のことや若者・外国人未来塾を始めて利用者がつながったことを伝えた。</p>
蒲郡市地域学校協働活動にスタッフが参加して説明	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡中学校において地域学校協働活動として保護者向けの定時制・通信制高校の説明を行った。 	<p>学校と地域のつながりに寄与した。また、そこで本事業を知った親子が通所につながった。</p>

※蒲郡市教育委員会「不登校児童学習支援」委託業務の中で本事業の周知を図っている。

5 取組の工夫

○取組の工夫

- ・学習以外の時間（アイスブレイク）を設け、通いやすいように工夫をしている。
- ・学習内容が難しすぎても簡単すぎても学習者はつまらなくなってしまうので、レベルにあった内容になるようにしている。蒲郡地域では個別学習で対応していることが多い。（両方）
- ・学習だけでなく、生活での困りごとがあれば協力したり、機関等へつないだりしている。（両方）

○タブレット端末、スタディサプリの使用事例

- ・教科書の英文読み上げを聞く。
- ・発話が苦手な利用者とのコミュニケーションツールとして音声読み上げアプリを使用。
- ・勉強に気がのらない利用者への歴史や地理の動画鑑賞（最後に問題が出題されるが映像を見れば答えることができるので、比較的やりやすい。）

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

<p>成果</p>	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験 合格者2名、科目合格者1名 ・「学びなおし」をきっかけに何かしら社会参加（来所）する利用者が増えた。（両方） ・学校など機関等との連携により、関係が途切れる前につながりをもつことができた。 ・支援内容に学習があることが徐々に周知され、学校に通う年代の利用者が増えた。「進路や就職等はまだ考えられないが、勉強を教えてくれるなら」とつながることがある。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を重ね、昨年度より機関・団体等からの紹介の件数が多くなったが、より必要とする方へ支援がつながるようになった。特に学校を離れる前（家にひきこもって適応指導教室等にも行けない状態、そのまま進路未決定で中学校を卒業しそうな状態、高校中退しそうな状態等）から学習補助という形で支援できた。 ・機関等の連携（特に中学校）により学習補助支援のリファーが昨年より増えた。また、各校長先生の判断により、学習参加が不登校児童の出席扱いになるケースが蒲郡市でも豊川市でも増えた。
<p>課題</p>	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援者がスタディサブリに習熟していないので、支援スタッフが慣れる必要がある。 ・スタディサブリは、授業映像を一方的に見て学ぶ学習方法なので、自分で自習ができる利用者には合っている。しかし、わからないことが途中で出てくる場合、学習支援員と不明点を理解できるように後で確認する必要がある。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高卒認定試験に挑戦する利用者が少ない。無料で勉強ができることを周知する広報等の工夫が必要である。 ・定時制・通信制高校在籍生徒への事業の周知が不十分である（特に通信制に通う生徒に対して）。 ・スクーリング日数の少ない高校に通う生徒へ事業の周知が難しい。中学校卒業前に学校等から伝えてもらうなどの工夫が必要である。保護者の支援（通学や送迎、勉強を教える等）が少なく自分で勉強の質問ができない生徒は一人で学習しないといけないことが多いので学習でつまずきやすくなる。 ・スタディサブリに各講義の達成状況をチェックテストがあるとなお良いと考える。 ・継続利用が難しい利用者が一部いる。保護者や家庭環境にもよるが、利用者1名では来所できない子もいる。 ・蒲郡地域は個別学習（1対1）で支援していることが多いため、予算（人件費）によって対応できる利用者の数（学習の枠）が限られる。利用者数をより増やす場合、学習レベルが同じ少人数のグループ（2～3名）を組む必要がある。しかし、学習レベルが似た人がいない、または、他の利用者と一緒に学習すると学習継続が困難な子も中にはいる（他の人の目が気になる。人が怖い等）。できるだけ来所してほしい半面、枠が限られているので希望される日の出席を断ることもあった。 ・「もっと勉強したい。」という学習者の声がある。特に日本語学習は週2日以上通うことが望ましいと考えるが、予算の関係上で開催日時（学習の枠）が限られる。（両方）

課題	<p>・経費（報償費）のほとんどは学習支援員の学習業務に当てられることが多い。相談や必要とする機関等へつなぐ場合、がまごおり若者サポートステーションに一度リファーした形としてサポステのスタッフが各機関（学校、医療、福祉等）への同行支援やリファーを行っている。本事業の経費の中で「つなぐための業務」の経費を捻出するのはなかなか難しい状況であるので、他機関・団体等との連携は不可欠である。（両方）</p>
----	--

7 運営者の声

（はじめに）

令和2年度から愛知県教育委員会委託事業を受託し、コロナ禍ではありますが、事業を続けさせていただいています。関係機関・団体等の方々の平素からの御理解と御協力に感謝いたします。

我々、NPO法人青少年自立援助センター北斗寮は、平成8年から様々な理由により社会参加が困難となり、ニート（ひきこもり含む。）や不登校の状態、自力でその状態を克服できない青少年及びその保護者に対するサポートを行ってきました。

また、平成19年から、厚生労働省委託事業として、地域若者サポートステーション（がまごおり若者サポートステーション及びとよかわサテライト）を開設し、働くことに悩みを抱える15～49歳の方々への専門的な相談、コミュニケーション訓練及び職場体験など就労に向けた支援を行ってきました。※「サポステを利用してみたい方」は本事業とは別に、サポステを紹介します。

これらのノウハウと支援ネットワークが、今後も本事業（無料学習支援及び相談）を通して悩める若者の支援にも少しでも役立てていけたらと思っています。

（青少年の自立等の支援を通じて）

コロナ禍ということもあり、不登校やひきこもりは増加傾向であるものと思います。また、本人だけでなく、その養護者（保護者）も悩んでいる状況だと思っています。なかなか周囲の人にも打ち明けられず、どこに何の支援を受けたらいいのかもわからない状況だと思っています。「エネルギーが溜まるまで待ちましょう。」と助言を受けて、子どもを休ませているけどいつまで待てばいいのかという不安と焦りにかられることもあります。つい、子供に厳しい言葉をかけてしまったり「早く」という無言の圧力をかけてしまったりすることもあると思います。何も状況が変わっていないようにはたから見えても、子ども本人は自分が持っている情報の中で必死に考えています。ただ、その情報の中だけでは答えが見つからなかったり、動けなかったりしているのです。そんなときは、「とりあえず専門家に相談してみよう。」と学習支援に保護者の方が立ち寄っていただければと思います。また、次第にご本人が来ていただけたらと思います。様々な事例を紹介する中で「新しい情報」がご家族や本人に少しずつ入ると、少しずつ色々な判断することができるので状況は動きだすものです。

（学習を切り口に一步進める場所へ）

今年は、中学生・高校生から学習支援に参加した子が次のステップ（就職等）へ行くこともできました。とてもうれしく思います。地域若者サポートステーションという場所で学習支援を行っているため、就労相談を同じ場所で受けることができます（サポステヘリパーソンとなります。）「まだ、就職は考えられない。」「もう一度勉強してみたい。」「何をすればいいかわからない。家にいても不安になる。」と利用者さんのおかれた状況は様々ですが、次のステップへの「居場所」「とまり木」として立ち寄ってもらえたら嬉しいです。

Aさん (30代 女性)

Aさんは令和2年から学習に参加されていました。高卒認定試験に挑戦したいとのことでした。しかし、当時は仕事と勉強の両立はなかなか難しく、令和2年と令和3年は高卒認定試験は受験しませんでした。しかし、令和4年から週2日程度ほど学習に通えるようになりました。

御本人は「小さいころから勉強に苦手意識がある。」とっていました。Aさんは小学校と中学校は欠席気味でした。高卒認定試験のうち「地理」と「現代社会」が比較的合格点を狙いやすいため集中的に勉強しました。「まず1科目でも合格して自信をつけたい。」と熱意をもって取り組んでいました。Aさんは問題の解き方に慣れてくると1問1問を解くスピードがどんどん上がってきました。過去問を解きながら、地図やグラフや会話文から必要な情報を読み解く力がついていくのが支援者として感じました。少しずつ本人が「できる」と感じるようになっていたように思います。暗記科目(世界史など)は直前に集中的に勉強し、11月の試験で6科目合格をすることができました。本人もとても驚いていました。

Aさんは過去のうまくいかなかった自分を悲観的に見ていたかもしれませんが、学習に通いながら少しずつでもできていく自分を感じていたのではないのでしょうか。また、学習以外の日常的な相談も受けていました。学習以外の悩み事をスタッフと一緒に考えていたため、勉強に時間をあてることができたのかなと思っています。

愛西地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

9人（継続1人・新規8人）

<居住地>

居住地	愛西市	弥富市	蟹江町	名古屋市	春日井市
人数	2	2	2	1	2
うち外国人数			1		2

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数		2	2			5
うち外国人数		2	1			

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	1	4	1		3
うち外国人数					3

その他の内訳 中学在学 2(2) 不明 1(1)

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数			3	1	5
うち外国人数					3

その他の内訳 高校進学のため 2(2) 高卒認定資格取得 1 学び直し 1
日本語学習のため 1(1)

オ 参加の経緯

- ・地域団体、関係機関からの紹介
- ・県ホームページやチラシを見て参加した。

カ 状況、ニーズ等

- ・国家資格取得のため、高卒認定資格が必要となっている。
- ・保育士になりたいという目標があり、学習会に参加している。
- ・中学校在学中だが、病気等あり、学校を欠席気味。高校進学のため、学習会に参加している。

- ・母国の情勢が不安定なため、令和4年12月に来日した。日本語学習を希望し、学習会に参加している。
- ・小学校高学年から不登校となっている。定時制高校に進学するが、高校2年時に中退した。就職を目指し、高卒認定資格を取得したい。

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者4人：全科目合格者1人 科目合格者2人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
久しぶりの勉強で不安だったが、学習会が楽しかった。 高卒認定資格も取得することが出来た。（30代女性）	仕事をしているので、開催時間を延長して欲しい。	安心して学べる場所なので、とにかく参加して欲しい。
高卒認定試験に一部合格することが出来た。試験が近づくとプレッシャーに感じることもあった。（30代女性）	—	参加して目標を見つけて欲しい。
親切に教えて頂いた。次年度も参加したいと思っている。（60代男性）	参加者に合わせた支援を行って欲しい。	参加してみたい。
引越しをして、会場が遠くなったため、学習会に参加することが出来なかった。時間が合えば学習会に参加したいと思っている。（10代女性）	会場が近いとありがたい。	—

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6人 <ul style="list-style-type: none"> ・大学生2人（教員志望） ・社会人4人（元教員、学習支援事業や塾での指導経験者、日本語支援経験者）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・つしま若者サポートステーションや愛知県内の大学へチラシ配布や掲示を行った。 ・公共施設にてチラシの設置をお願いした。 ・法人ホームページにチラシを掲載した。
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・つしま若者サポートステーションより支援スタッフ希望者の紹介があった。若者サポートステーションとの連携は、有効だと感じている。 ・愛西地域の関係者・関係団体への支援スタッフ募集の呼びかけ。 ・SNSの活用

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村教育委員会 ・市町村の相談窓口、担当課 ・保健所の相談窓口 ・津島公共職業安定所 ・愛西地域協議会の参加団体 ・つしま若者サポートステーション ・図書館などの公共施設、支所 ・愛西市社会福祉協議会 ・弥富市社会福祉協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布頂き、相談や利用に繋がったケースがあった。 ・スクールソーシャルワーカーの方より、問い合わせがあった。
SNS	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterにて学習会情報を発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会の様子を発信した。

5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の居場所となる様に、参加者に合わせた支援を行っている。 ・参加者が多くの支援スタッフに関われる様に担当科目制で支援を行った。 ・オンラインでの学習会を実施した。 ・タブレット端末やパソコンを活用して、視覚に訴える補助教材等を提示している。 ・タブレット端末やパソコンを活用して、学習動画を用いた学習支援を行っている。 ・日本語支援にタブレット端末の翻訳機能を活用した。 ・高校入試に向けて、作文や面接等の個別対応を行った。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度は、高卒認定試験を4名が受験し、全科目合格1名、一部科目合格2名という結果となった。 ・2022年度は、学習支援登録者数が9名となっている。2021年度よりも登録者数が増加している。 ・参加者の学習状況に合わせた学習支援を行うことができた。 ・外国籍の方が継続的に学習会に参加している。支援スタッフの中には、初めて日本語支援に関わる方もおり、学習支援方法や参加者への関わり方など変化・成長が見られた。 ・連携を図った関係機関や地域の相談窓口より、利用者や相談者を繋いで頂いた。 ・日本語教師の資格を持った方が支援スタッフとして加わった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・海部地域7市町村（愛西市・あま市・津島市・弥富市・大治町・蟹江町・飛島村）での広報活動 ・相談から学習支援参加までのアプローチ ・日本語支援体制強化（日本語支援のできる支援員の確保） ・参加者、家族の抱える困難・課題の相談先確保、連携。 ・長期欠席者の学習支援方法

7 運営者の声

2022年度愛西地域での本事業の取組は、令和4年4月19日より学習会を開始した。学習会と合わせて、2021年度の広報先を中心に広報活動を行った。市町村の相談窓口や若者サポートステーション、公共施設、関係団体へチラシ配布、事業説明を行い、相談窓口より利用者・相談者の紹介を頂いた。

参加者は、2021年度から継続参加している2名、2022年度に8名が参加し、利用者数が増加している。年齢も10代から60代と幅広い年代の方に参加頂いた。

支援スタッフは、関係団体や若者サポートステーションに紹介を頂き、支援体制を構築することが出来た。支援スタッフの中にも、様々な困難を抱える方もおり、参加者や支援スタッフ同士の関わりから、自信を取り戻すケースがあった。学習会が参加者だけではなく、支援スタッフの学びの場となっている。

2022年度は、登録者数9名と少数であったが、4名が高卒認定試験を受験し、全科目合格1名、一部科目合格2名となった。資格取得後に進学相談があり、市町村の相談窓口と連携して対応を行った。

2021年度より継続参加している10代の2名は、定時制高校進学したが、学習に不安があるとのことで長期休暇中に学習会に参加をしている。日常は、学校があるため、学習会への参加は難しいが、何かあった時に相談ができる一つの居場所となっている。

愛西地域での本事業の取組は、市町村の教育委員会、相談窓口、地域の方々の御協力を頂き、周知活動、学習支援実施、参加者の困り事の相談、連携を行うことが出来た。

特に広報活動は、地域の方の繋がりから、広報先を紹介いただき、事業説明を行うことができた。この事業が必要な方に情報が届く機会が増えたのではないかと感じている。次年度に向けての課題もあるが、2022年度の大きな成果と考えている。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人ワーカーズコープ

Bさん (34歳 女性)

市町村の相談窓口より学習会を紹介されて学習支援に繋がった。

保育士になりたいとの希望があり、高卒認定資格取得を目指していた。平日は、仕事をしながら学習会に参加し、令和4年第2回高卒認定試験に全科目合格して学習会を卒業することになった。

その後は、進学のために学校の情報や市町村の相談窓口も情報を共有し、対応を行った。

本人とも相談をしながら、次年度以降の進学を目指すこととなった。次年度も必要があれば、学習会に参加したいと話をしてくれた。

知立地域（学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

19人（新規19人）

<居住地>

居住地	刈谷市	安城市	碧南市	西尾市
人数	7	6	1	1
うち外国人数	2	2		
居住地	東浦町	豊田市	岡崎市	名古屋市港区
人数	1	1	1	1
うち外国人数				

イ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上	不明
人数	3	1	9	3		2	1
うち外国人数	2		1			1	

ウ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数		2	7	1	9
うち外国人数					4

その他の内訳 小学校在学 1 中学在学 1 インターナショナルスクール在学 1(1)
 インターナショナル幼稚園在籍 1(1) 大学在学 2 高校中退（母国） 1(1)
 大学中退（母国） 1(1) 不明 1

エ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数	4		4	1	10
うち外国人数	1				3

その他の内訳 学習の補助 4 高校進学 1(1) 高校卒業 1 大学の勉強 1 日本語学習 2(2)
 進路相談 1

オ 参加の経緯

高校の先生の紹介、居場所からの紹介、支援機関からの紹介、親の会からの紹介

カ 状況、ニーズ等

- ・英検の2級に合格したい
- ・高校在学中だが勉強についていけない。
- ・中学不登校で、通信制通うが、基礎から勉強したい。
- ・日本語の読み書きを初歩から学びたい
- ・定時制高校入学のための勉強をしたい。

キ 高卒認定試験（年間通じて）

受験者0人

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
居心地がいい（10代）		
友達ができておもしろい（10代）	もっとほかの生徒と関わりたい	みんな優しい、良い先生ばかりなので、心が楽です。
豪華、個別の家庭教師みたい。（20代）	もっと時間が長いと良い。仕事していると参加できない。	自分のしたい勉強がある人はまず相談してみてください。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	10人 <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援のスタッフ（5人） ・日本語支援のスタッフ（1人） ・コーディネーター（2人） ・ボランティア（2人）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの会員の知人を通じて、人材を探す。 ・この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる ・日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる。

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	・各市町の若者支援の団体、子若の協議会の委員。	パンフレットのデザインは評価される。それを見ての参加者あり。
SNS	・Twitter・Instagramでの広報	フォロワー Twitter：113人 Instagram：126人 ※確実に見られている人数

Webサイト	・ぶらっとほーむのWebサイトでの広報	NPOの活動の一つとして、団体に興味のある人達に周知されている。
--------	---------------------	----------------------------------

5 取組の工夫

<p>学習支援のスタッフが、利用者のニーズ、課題を踏まえ、自前で教材を作っている。</p> <p>参加者が、継続的に取り組めるように、声かけや、丁寧な対応をし、楽しい雰囲気づくりをしている。</p> <p>支給されたタブレットを使って、語句を調べたり、映像視聴をしたりしている。</p>

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・英検の勉強をしている参加者の学習が進み、準2級が合格し、2級のための勉強を始めた。勉強が進むにつれて、不安定だった精神状態が落ち着いてきた。 ・自分の学力に合わない環境で無理に学習していたが、自分にあった適切な進路を考えることができた。 ・日本に来たばかりのミャンマー出身の青年が、定時制高校受験に向けて、日本語と数学の勉強をし、学力を伸ばした。 ・昼間定時制の2年生で、解離性障害で過去の記憶を5月に喪失したが、適切な学習指導を受け、赤点、補充なく、一年を終えることができた ・利用者同士の人間関係が少しずつでき、勉強の合間にカードゲームをして遊び、親もそれを理解し、カードを学び、刈谷市の「子ども・若者相談窓口」の居場所でカードゲームの大会を開催し、楽しむことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業では、学習支援と外部へと繋ぐ支援は別物で、後者の支援は時間外で、アウトリーチをする場合もあり、この事業の枠内ではやりきれないところがある。後者の支援者への負担軽減等の配慮をする。 ・学習支援の時間が限られ、支援者同士の情報共有の時間がなかなか持てない。枠外で別途設ける必要がある。 ・個々の利用者の学力や、ニーズが異なるために、利用者へ一対一の対応が求められる。利用者の数が増えると、支援者の数が足りなくなり、対応ができなくなる。特に外国人が増えると、パンクする可能性があり、広報をためらいがちになる。

7 運営者の声

<ul style="list-style-type: none"> ・「若者・外国人未来塾（知立）」は、私たちが市の子ども若者育成支援の相談窓口の事業を受託している関係で、刈谷市の生涯学習課の全面的な協力をいただいています。県の事業ですが、市町の行政機関からの積極的な協力が必要と考えます。これからも、県の方から、市町へと積極的に働きかけをいただくと幸いです。 ・若者・外国人未来応援事業と、各市町の子ども若者育成支援を引き受けている団体と、有意義な連携がとれるといいと考えています。

名古屋地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

4人

<居住地>

居住地	名古屋市港区	名古屋市昭和区	あま市
人数	2	1	1
うち外国籍人数	2	1	1

イ 国籍

国名	スリランカ	中国	ネパール	ヨルダン
人数	1	1	1	1

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数		1	2			1
うち外国籍人数		1	2			1

エ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	3		1	1	
うち外国籍人数	3		1	1	

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数					4
うち外国籍人数					4

その他の内訳 高卒認定試験合格 3(3) 高校進学 1(1)

カ 参加の経緯

国際センターや、YWCAからの紹介。また、参加者が同居人に紹介したケース。

キ 状況、ニーズ等

- ・すべての参加者が最近（1年～2年以内）に来日。日本語会話はできるが、読み書きにかなりの困難を抱えているケースもあったが、日本語での会話がほとんどできない参加者もいた。YWCA等他の機関でも学びながら参加したケースもあった。

2 参加者の感想・メッセージ

感想・メッセージ等をいただくことができなかった。

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	16人	<ul style="list-style-type: none">・大学生、大学院生（11人）・高校非常勤講師（1人）・元教員（2人）・法人スタッフ（2人）
スタッフの募集方法	・大学生スタッフによる後輩等の紹介	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none">・スタッフ同士のコミュニケーション（今いるスタッフが続けられる仕組みづくり）・新規スタッフへのOJT	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・自治体関係、図書館	チラシデザインの洗練
〃	・参加者を紹介した支援者等	別の参加者のきっかけとなった事例（複数）
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none">・N5～N2レベルのテキストを揃え、参加者の状況に応じて活用。・会話のレベルによっては翻訳機も使用。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	・昨年度は参加者がなかったが、今年は参加があった。（運営者）
課題	<ul style="list-style-type: none">・学習支援参加者との兼ね合いで、手厚く支援することができない（スタッフ）・高卒認定試験への道のりは程遠く、続かない（運営者）

7 運営者の声

高卒認定試験や日本の高校入学を目指す程度のレベルにある方は日本語の平易な会話ができ目指すべき目標も一緒に立てることができ、学習支援の延長として対応することができたが、来日したばかりの会話が難しい方に十分対応することは難しかった。本事業の対象や位置づけ、他の取り組みとの区別・関連を明確にしていくことが今後の課題である。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人あいち・子どもNPOセンター

Dさん (17歳 女性)

中卒で来日して、定時制高校への進学を目指している。入学試験の計算問題や英語は解くことができるが、国語や数学の文章題は何を問われているかを理解することが難しい。スタッフは過去問を解くこととあわせて、日本語面でのサポートをしている。

豊橋地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

11人

<居住地>

居住地	豊橋市
人数	11
うち外国籍人数	9

イ 国籍

国名	日本	ブラジル	ペルー
人数	2	2	7

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数		3	2	1		5
うち外国籍人数		3	2			4

エ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数				1	10
うち外国籍人数					9

その他の内訳 オンライン大学に在籍 1(1) ペルーの中等学校（5年制）を卒業 3(2)
 浜松のペルー人学校に在籍中 3(3) 不明 2(2) 中学校在学中 1(1)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数					11
うち外国籍人数					9

その他の内訳 日本での生活のため 7(7) 職場で困る 1 高卒認定合格のため 1
 日本語の学習 2(2)

カ 参加の経緯

- ・ 口コミ
- ・ 家族経由
- ・ ホームページ

キ 状況、ニーズ等

- ・当地域は日本語学習対象者を広く募集しているが、現状はペルーとブラジルの2か国からの参加者のみ。
- ・日本語の学習と学校の学習は関連しているため、その点を柔軟に対応できるよう心掛けている。その一方ですでに学業を終えている外国人の参加者も募集している。
- ・ベトナム人などは人口比を考えればニーズがあると思われるが、宣伝先が不明のため参加者なし（ベトナム人と繋がりがある人への紹介は行った）。
- ・課題として、真剣に勉強したい人と楽しく勉強したい人を同じ教室内に配置することは難しいので、来年度にこの問題を解決する。

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
クラスはたのしい（10代男性）	国内にもっと同様な教室があれば良い（翻訳済み）	日本語は学びたい。ここはいます。
よいです（20代女性）	会社を作りたいので日本語を勉強している	
読み書きができないために学校の勉強についていけない子供たちのためになっているので助かる（翻訳済み）（40代保護者）	真面目に勉強したい人と楽しく勉強したい人のクラス分けが必要（翻訳済み）	

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	4人 ・通訳・学習相談（1人） ・学習支援・学習相談（3人）
スタッフの募集方法	・現在スタッフは募集していない。
スタッフ確保のための方策	・関係者会議によるネットワーク

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
インターネット	https://npoimakara.org/gakusyu/gakusyu.html	ホームページ経由で日本語を勉強したいという利用者を登録
関係者会議	・若者・外国人未来塾の各受託団体	
口コミ	・外国人コミュニティの中心的人物	起業したいという外国人を登録

5 日本語学習支援の内容について

- ・遠隔地の外部講師（通訳）とリモートで繋がるためにタブレットを利用
- ・スタディサプリは便利だが日本語学習支援に直接役立てることは難しい。補助的に利用。
- ・クイズアプリなどを用いている。
- ・基本的な文法書や問題集もあるが、未成年の利用者などはずっと同じことをしていると飽きてしまうので、例えば理科や歴史などの教科と日本語の学習をミックスしながら学んでもらえるように心がけている。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力検定N5（5級に相当）に不合格であった生徒が、現在ではN4の合格も射程に入っている。 ・日本語の学習と学校の勉強を組み合わせなければならない学習者への対応は人によって異なるので、常に方法を模索しながら支援を進めている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくコミュニケーションをとりながら学習したい利用者と、真剣に知識を吸収したい利用者を同時に学習させることは困難。部屋を分けるなどの工夫が必要になってくる。 ・立地上の問題。外国人の居住場所は市内に大きく広がっているが、当団体の開所場所は駅から近くないためにアクセスに多少の難がある。このアクセスの難しさで参加を見合わせた人もいる。

参加者ピックアップコラム

（団体名） NPO法人 いまから

Lさん（19歳 男性）

Lさんは日本語の勉強をするために、この学習支援に参加しています。幼少期から外国生活が長かったので、彼にとって日本語の習得は高いハードルです。それでも彼はこの学習支援に通い続けています。もともと学校の勉強が得意で、科学や歴史などの好奇心が旺盛であるため、学校で学ぶような学問と日本語の勉強を混ぜることで勉強を楽しんでいる姿勢が見受けられます。

「日本語は理解できるけれど学校の勉強についていくことができない」という彼とは真逆の利用者と一緒に勉強する時に、お互いを補うように助け合いながら勉強を進めていく姿を見て、私たちも助かっています。

まだ会話は苦手な様子ですが、それでも漢字が得意であるため、文を読む能力が備わっています。

歴史のマンガなどを読む力が身につけてきているので、ある程度の自習が可能な段階まで学んでもらうことができたことを、スタッフとして嬉しく思います。

豊田地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

18人

<居住地>

居住地	豊田市	東郷町
人数	17	1
うち外国籍人数	15	1

イ 国籍

国名	日本	中国	ネパール	パキスタン	ブラジル	ペルー	ボリビア
人数	2	1	1	1	8	4	1

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数	3	10	4	1		
うち外国籍人数	1	8	4	1		

エ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数	1		4		13
うち外国籍人数	1		4		11

その他の内訳 小学校在学 3(3) 中学校在学 9(7) その他 1(1)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数	1				17
うち外国籍人数	1				15

その他の内訳 高校進学 1(1) 資格取得 1(1) 高校卒業 2(2) 学力補充 13(11)

カ 参加の経緯

- ・紹介（姉、高校の先生、知人）

キ 状況、ニーズ等

- ・高卒認定試験受験希望者よりも、外国籍の学校の授業についていけない生徒が多い。日本語ができない訳ではなく、勉強の基礎ができていない生徒が多い。日本に来て、日本語ができないうちに義務教育を終えてしまって、高校でつまづいてしまっている。
- ・コロナウイルス感染症拡大により離れてしまった生徒が戻らない。
- ・継続して来られない生徒がいる。(支援者が学習計画をたてづらい)

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
たのしい (10代)		先生が親切で、勉強しやすい

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	1人	高等学校教員(再任用)1名
スタッフの募集方法	・現在募集は行っていない。	
スタッフ確保のための方策	・教員OBからの紹介	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
広報とよた	・市民	参加者や先生、他の福祉関係機関からの紹介で来る人が多い。未来塾対象者本人よりも対象者の周辺の人に周知する意味で効果があると思われる。
Twitter	・Twitter	
ちらし	・市内公共施設	

5 取組の工夫

支援員はシフト制で毎回異なるが、日報などで情報共有して、生徒がいつ来ても対応できるよう取り組んでいる。

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加し続けた参加者に学習の取組の変化が見られた。 ・学習支援だけでなく、居場所的要素（お楽しみ、クリスマス会などを実施）を取り入れた。その際には、参加者の個人や家庭環境の悩みを打ち明けることがあった。
課題	<p>【参加状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に通えていない参加者が多い <p>【指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語専門の指導支援員が一名しかいないので、毎回同じ質の指導ができない <p>【周知について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を欲している方に本事業をどのようにPRしていくのが得策か検討が必要 <p>【予算について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年を通して予算化されていないので年間で継続できない

7 運営者の声

高卒認定試験の受験生が少ないので、周知の必要性を感じている。高校に通っている外国籍の生徒や日本語は問題のない生徒で進級に不安のある生徒を、多く受け入れており、高校を中退してしまう前に支援ができているのは、とても意義があると思う。

継続して通えていない参加者は、家庭環境や交通手段、意欲など複合的な理由で継続できないと思われる。特に、学業が苦手な参加者は、学習すること自体を忌避する傾向があるため、未来塾の参加に意欲的になれない場合がある。すべてを解決することは難しいが、お楽しみ会を開催したり、書初めを実施したりすることで、参加しやすいように工夫した。お楽しみ会があることで、しばらく参加していなかったが、また未来塾に参加するきっかけとなったと言ってくれた参加者もいたので、今後も負担にならない程度に開催していきたいと考えている。

参加者ピックアップコラム

（団体名） 豊田市青少年センター

Mさん（18歳 男性）

2022年春に来日。母国では、コロナによるロックダウンのために、ほとんど日本語の学習ができない状況であったため、ほとんど話せない。夏頃は初めての日本の夏に順応できず一時期休んでいたが、継続的に通うことができている。家庭では、母語で話すそうなので、未来塾は日本語を話す貴重な機会となっているようである。未来塾では、他の参加者の修学旅行のお土産の日本の伝統的なお菓子を食べたり、学習支援参加者の一人から書道を学んだり、楽しみながら学習ができたりしている様子である。

蒲郡地域（日本語学習支援）

1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズを持っているのか）

ア 参加者

22人

<居住地>

居住地	豊川市	安城市
人数	20	2
うち外国籍人数	19	2

イ 国籍

国名	日本	インドネシア	韓国	台湾	フィリピン	ブラジル	ペルー
人数	1	1	1	1	14	1	3

ウ 年齢 ※参加時の年齢

年齢	～12歳	～15歳	～19歳	20～24歳	25～29歳	30代以上
人数	1	1	4	1	8	7
うち外国籍人数	1	1	3	1	8	7

エ 学歴

学歴	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
人数		1	1	1	19
うち外国籍人数			1	1	19

その他の内訳 小学校在学 1(1) 中学在学 1(1) 大学卒業 3(3) 大学院卒業 1(1)
 中学卒業（フィリピン：4年間） 2(2) 高校卒業（フィリピン） 1(1)
 高校中退（フィリピン）、日本の夜間中学卒業 1(1)
 短期大学卒業（フィリピン） 1(1) 不明 8(8)

オ 学習の目的（複数ある場合は、主なもの）

学習の目的	大学進学	専門学校進学	資格取得	より良い就職	その他
人数				12	10
うち外国籍人数				12	9

その他の内訳 日本語能力試験に向けた学習 3(3) 日本の高校へ通いたい 4(3)
 小学校の学習補助 1(1) 日常の日本語会話を学ぶ 1(1)
 日本語能力をあげたい 1(1)

カ 参加の経緯

- ・紹介（利用者、父親、祖母、姑、職場の同僚、市役所の国際課（Facebook、チラシ））
- ・チラシ

キ 状況、ニーズ等

- ・在留資格や仕事に就くために勉強したいという利用者が多い。
- ・10代で来日したので定時制高校を目指すために通っている。
- ・地域の日本語教室では、日本語がメインで授業をるところもある。ここは英語を使って授業を受けたりわからないことを質問したりすることができるのでよい。
- ・海外で大学院・大学卒を卒業し英語が堪能であっても、東三河では日本語がある程度できないと就職先が少ない。特に、海外でプログラマーや教師等の経験があっても日本では日本語能力試験N2程度の日本語能力を求められるので専門職への就職の壁は高い。そういった専門的な能力のある方が複雑な日本語をあまり使用しない製造業や介護職に就くのはもったいないと感じている。日本語を学びたいという意欲のある外国人に対し、ひらがな、カタカナ、日常会話以外にも日本語を学べる場所が他にもあるとよいと考える。
- ・親の都合で来日したが、海外と日本で教育制度が違うため日本では中学卒業とみなされない子が散見される。フィリピンの中学校を中退して来日したが、日本では義務教育が終わっている年齢のため日本の中学校にも転校できない。日本の定時制高校を目指しているが、フィリピンの中学校卒業証明書は取得できないし、日本の中学卒業認定試験は日本語のレベルが高くすぐに取得できない。中学校程度の学力認定、定時制高校入学を目標に日本語を勉強している。

2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
はじめは日本語ができなかったけど上達して今はできるようになってきた。（10代）	中学校の数学を勉強したい。	安心、たくさん勉強、¥0（安心してたくさん勉強できて無料です。）
親切に日本語を教えてくれるので簡単に日本語での話し方を知ることができます。（10代）	私はまだ難しい単語の発音を練習しないとしけないのとカタカナをもっと覚えなといけない。	今はないです。
ここの先生はみんな親切なのでいつも安心して質問できます。日本語と仕事についてここでたくさん学んでいます。（20代）	日本語をもっと学びたいですが、文法だけでなく日本でのキャリアの手助けになるものも学びたいです。	私のような外国人へ。勉強して日本語の先生と交流することで日本のことをもっと知れてマナーのある日本語の言葉遣いができるようになります。なので、自由のための勉強にもっと挑戦してください。

教えてもらって楽しい。(10代、30代)	—	—
—	授業時間を増やしてほしい。(10代、20代)	—

3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・塾講師経験者（教員免許保有）（1名） ・元役員（教員免許保有）（1名） ・若者自立支援経験者（1名） ・心理カウンセラー（1名）
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・サポステスタッフからの紹介 ・チラシ（リーフレットを見て活動に興味をもった） 	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育OBの知り合い ・サポステスタッフの知り合い 	

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布または訪問による説明等（来所も含む。）	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者（19ヶ所） ・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者（16ヶ所） ・蒲郡市内図書館 ・豊川市内図書館及び生涯学習センター ・豊川市市民協働国際課（訪問） ・豊川市児童発達相談センター（訪問） ・豊川市国際交流協会ラテンアメリカ部会（訪問） ・愛知県立豊橋工業高等学校定時制（訪問） ・蒲郡市内の中学校（7校）（訪問）※ 	<p>各機関・団体の責任者または担当者レベルでの事業の周知ができた。昨年度より各機関等からの紹介が増えた。</p> <p>外国にルーツのある若者に本事業をわかりやすく伝えるためにスペイン語版のリーフレットを新たに作成した。タガログ語とポルトガル語も同様に配布した。</p>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若者未来応援協議会（豊川市、蒲郡市）2ヶ所 	<p>協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当者レベルでの顔合わせができた。</p>
北斗寮として参加した会議等において本事業の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡市不登校対策協議会 ・豊川市子ども・若者地域支援協議会 ・豊川市ひきこもり家族教室 ・刈谷市ネットワーク会議 ・西尾市子ども若者支援協議会 ・東三北地区教育相談部会 	<p>対面またはZOOM等で各会議等へ参加。本事業の説明や学校連携のことや若者・外国人未来塾を始めて利用者がつながったことを伝えた。</p>

蒲郡市地域学校協働活動にスタッフが参加して説明	・蒲郡中学校において地域学校推進活動として保護者向けの定時制・通信制高校の説明を行った。	学校と地域のつながりに寄与した。
-------------------------	--	------------------

※蒲郡市教育委員会「不登校児童学習支援」委託業務の中で本事業の周知を図っている。

5 日本語学習支援の内容について

<p>○支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験（N4、N3、N2、N1）の勉強 ・日本の小学校の学習補助（宿題やプリント） ・日常会話や日常でよく使用する漢字 ・日本の文化や生活、仕事に必要な日本語 ・定時制高校入学のための準備（作文、面接含む。） ・介護福祉士の国家試験のための日本語 ・日本語でのパソコンの扱い方 <p>○学習支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が難しすぎても簡単すぎても学習者はつまらなくなってしまうので、レベルにあった内容になるようにしている。蒲郡地域では個別学習で対応していることが多い。 ・学習だけでなく、生活での困りごとがあれば協力し、機関等へつなぐ。 ・ローマ字の読みがついているテキストはローマ字を読んでしまうので、日本語がある程度話せるようになったらローマ字なしのテキストを使っている。 ・漢字の学習に合わせて意味を教えている。「姉」という漢字を「おねえさん」と読むことや、教科書は読み仮名をつけてすらすら読むことはできているが、正しい意味を知らずに国語の授業を受けている外国人の子が多いからである。読むことはできても文章の意味が実はわかっていないということが見過ごされていると感じる。 <p>○タブレット端末、スタディサプリの使用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語初心者との翻訳機能や写真を通じた会話

6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験N2合格1名 ・日本語能力試験N4に挑戦1名 ・定時制高校の入学を目指す外国人2名を支援した。 ・日本語の日常会話ができる外国人から、来日後間もなく、ひらがなすらもわからない外国人まで幅広いニーズの中、利用者が継続的に学習に取り組めるように工夫することができた。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関等の連携（リファー）により、日本語学習支援が昨年より増えた。特に国際課から新規5名、国際課に置かせていただいたリーフレットから新規3名が繋がった。また、日本語学習に通いつつ求職活動をする外国人利用者が3名と昨年より増えた。 ・「学びなおし」をきっかけに何かしら社会参加（来所）する利用者が増えた。（両方）
----	--

課題	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が難しすぎても簡単すぎても学習者はつまらなくなってしまうので、レベルにあった内容になるようにしている。蒲郡地域では個別学習で対応していることが多い。（両方） ・学習だけでなく、生活での困りごとがあれば協力したり、機関等へつないだりしている。（両方） ・仕事をしている人は学習のモチベーションを保つのが難しく継続が難しい。 ・よい条件の就職には日本語能力試験を受けるのがよいのだが、簡単な漢字を読めれば生活には困らないので学習をやめてしまう。「日本語能力試験N3に合格したい。」などの目標がある人は継続できているので、今後、「合格後に希望の職につけた」「給料があがった」などの事例を示せるとよい。 ・スタディサブリは日本語の授業なので学校の勉強をしたい外国人には難しい。 ・スタディサブリに小中学校程度まででよいので母国語対応の辞書（用例を含む。）があると支援者として助かります。 <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もっと勉強したい。」という学習者の声がある。特に日本語学習は週2日以上通うことが望ましいと考えるが、予算の関係上で開催日時（学習の枠）が限られる（両方）。
----	--

7 運営者の声

<p>（はじめに）</p> <p>令和4度から愛知県教育委員会委託事業（日本語学習支援）を受託し、コロナ禍ではありますが事業を続けさせていただいています。関係機関・団体等の方々の方々の平素からのご理解とご協力に感謝いたします。</p> <p>また、平成19年から、厚生労働省委託事業として、地域若者サポートステーション（がまごおり若者サポートステーション及びとよかわサテライト）を開設し、働くことに悩みを抱える15～49歳の方々への専門的な相談、コミュニケーション訓練及び職場体験など就労に向けた支援を行ってきました。※「サポステを利用してみたい方」は本事業とは別に、サポステを紹介します。</p> <p>これらのノウハウと支援ネットワークが、今後も本事業（無料学習支援及び相談）を通して悩める若者の支援にも少しでも役立てていけたらと思っています。</p> <p>（青少年の自立等の支援を通じて）</p> <p>本事業を運営する中で外国に由来を持つ方々へ関わりが増えていきました。その際、外国人の未就学や不登校、未就労の状況を知っていきました。また、本人に日本語を学ぶ気持ちがあっても、近くに勉強できる場所が少ないことや日本語学習ができる行政サービスへたどり着いていない現状がまだまだあるように感じます。また、母国で教師やプログラマーなどの専門職であっても、日本語で仕事をしないといけない求人が東三河では多く（日本語能力試験N2～N4が必要）、複雑な日本語をそこまで必要としない製造業などで働くのはもったいないと個人的に感じています。特に漢字は大きな壁で、アルファベットに慣れた方には全く馴染みのない形で、かつ、音読みと訓読みがあるのは学習者を本当に悩ませています。</p> <p>（学習を切り口に一步進める場所へ）</p> <p>日本語ができると日本でできることが増えます。介護福祉士の資格取得を目指して日本語を勉</p>

強している方や定時制高校を目指している外国にルーツをもつ方々があります。在留資格のため日本語能力試験N3合格を目標にしている方もいます。「半額」というシールの意味がわかって得をしたという日常的なエピソードまで、少しでもここを利用していただき皆様の役に立てばと思います。

参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人青少年自立援助センター北斗寮

Bさん (10代 女性)

Bさんは日本で生まれてすぐにフィリピンへ行ってしまいました。その後、フィリピンで暮らしていましたが、親の都合で16歳でフィリピンの中学校を中退して来日しました。そのため、日本国籍ですが日本語は全くわかりません。また、16歳は日本の義務教育が終わっているため日本の中学校にも入れませんでした。日本とフィリピンの教育制度が違うためこのようなことがおきました。

Bさんは日本の定時制高校入学を目指してこの学習に参加しています。しかし、中学校卒業程度であるという証明を先にとらなければいけない状況でした。日本の中学校卒業程度認定試験合格に必要な日本語のレベルは高く、まだ日本語を習いたてのBさんには厳しいものでした。また、名古屋には中学夜間学級もありますが、こちらも日本語での授業についていければなりません。16歳以上で来日した方にとって、日本で中学校卒業程度という証明をとることは長い道のりになるのだと感じました。

現在、Bさんは週2日この学習へ通っています。自宅でも一生懸命に勉強しています。まずは中学校卒業程度の認定を目指し、次に定時制高校への入学を目指しています。なかなかすぐにうまくいかないものだと感じながらも、少しでも彼女たちの助けになればと思います。

4 令和4年度「若者未来応援協議会」の実施状況

(1) 合同協議会について

【合同協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年7月28日 (木)	愛知県生涯学習 推進センター	【報告】 (1) 令和3年度「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び成果と課題について 【協議】 「若者・外国人未来応援事業」における課題について (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について (2) 効果的な広報の在り方について (3) 高卒認定後の進路支援の在り方について
2	令和5年2月9日 (木)	愛知県生涯学習 推進センター	【報告】 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」の実施状況 ・9地域全体の状況 ・令和4年度若者未来応援協議会 情報交換会 から各地域の状況 【協議】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」における課題 ・学習支援拠点以外の市町村、関係機関・団体との連携 ・(長期欠席者への対応を含む) 参加者に対する支援上の配慮 (2) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」

(2) 地域協議会について

【名古屋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年9月15日 (木)	愛知県生涯学習 推進センター	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
2	令和5年2月15日 (水)	愛知県図書館	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要(次年度に向けて) (2) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について

【豊橋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年5月11日 (水)	豊橋市 総合福祉センター	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 令和3年度「若者・外国人未来応援事業」年間実施状況
2	令和4年10月28日 (金)	豊橋市役所	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 令和3年度「若者・外国人未来応援事業」年間実施状況

※ 豊橋地域協議会は「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催している。

【豊田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年8月9日 (火)	豊田市 青少年センター	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」豊田地域成果報告 【情報交換】
2	令和5年2月28日 (火)	豊田市 青少年センター	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」豊田地域成果報告 【協議】 (1) 学習支援拠点以外の関係機関・団体との連携 (2) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」

【半田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年6月23日 (木)	クラシティ	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要について (2) 「若者・外国人未来応援事業」における連携機関等の業務内容について (3) 半田地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携について 【協議】 (1) 半田地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携について (2) 半田地域での周知度が広まるにつれて見えてくる課題・幅広い対象者の利用とサポステが受託しているメリット・デメリット
2	令和4年12月22日 (木)	クラシティ	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」今年度新規の傾向 (2) 令和4年度高卒認定試験合格者について合格までの様子と合格後の支援 (3) 学校やSSWとの連携の現在の報告地元から名古屋の高校に通っているなど (4) 愛知県教育委員会からの報告等 【協議】 (1) 高卒認定を取得後の支援について (2) 児童相談所との連携の事例の難しさ (3) 連携できそうな情報など交換・共有

【春日井地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年1月23日 (月)	春日井市役所	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取り組みについて (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況、地域協議会について 【協議】 (1) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の地域協議会、連携、課題について
2	書面開催		【報告】 (1) 令和4年度若者・外国人未来応援事業実績状況（令和5年2月28日現在） (2) 令和4年度若者・外国人未来応援事業成果報告書（春日井地域）

【一宮地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年9月13日 (火)	一宮市立中央図書館	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
2	令和5年2月14日 (火)	一宮市立中央図書館	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要（次年度に向けて） (2) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について 【協議】 (1) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について

【蒲郡地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年8月29日 (月)	蒲郡市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（蒲郡市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について
2	令和4年9月21日 (水)	豊川市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（豊川市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について

【愛西地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和5年1月20日 (金)	愛西市文化会館	【報告】 (1) 令和4年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取り組みについて (2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況、地域協議会について 【協議】 (1) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の地域協議会、連携、課題について
2	書面開催		【報告】 (1) 令和4年度若者・外国人未来応援事業成果報告書(愛西地域)

【知立地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和4年8月26日 (金)	刈谷市 社会教育センター	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について
2	令和5年2月2日 (木)	刈谷市 社会教育センター	【報告】 (1) 「若者・外国人未来応援事業」の令和4年度の実施について (2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の令和4年度の実施報告 【協議】 (1) 若者・外国人未来応援塾知立における他機関との連携の事例 (2) 他地域からの連携事例 (3) 報告から支援のポイント、他地区と連携についての課題、今後の可能性について

5 学習支援に参加された皆さんの声

学習支援参加者（日本語学習含む。）にとって、この事業はどのようなものであったのでしょうか。学習支援参加者に、この事業での経験の振り返りを呼びかけたところ、何人かの方が応えてくれました。

この事業を利用し、感じたことを自分の言葉で表現をしてくださいました。学習支援参加者の貴重な「生の声」として掲載させていただきます。

【漢文の勉強】Aさん（23歳・男性）豊橋地域

1日2時間いっぱい勉強できて、今はスタディサプリが使えるのでとても助かります。1人でスタディサプリが使えるので集中ができます。

【日本語の勉強】Bさん（19歳・男性）豊橋地域

ここはやさしいし、がんばっている先生がいる。クラスはおもしろいです。日本語のクラスと、他のクラスがあります。例えば、算数や理科、英語なども勉強できます。ここに来れば、勉強をすることができますよ。

【目標を後押ししてくれる居場所】Cさん（25歳・女性）知立地域

私は中学3年から不登校になりました。昼間定時制高校に行きましたが、1年で退学して、通信に転籍しました。働きながら通信を続け、2年前に8年かけて卒業しました。ずっと進学することが夢だった私は、通信制大学に進学しようと覚悟を決めました。

洋楽が好きな私は、大学で英語を学びたいと思い、受験に必要な英検2級を目指して勉強を始めました。が、なかなか思うように進みません。そんな時に「川の会」（安城市の居場所）をやっている、昼定1年時の担任の先生が、ここを紹介してくれました。

参加してみて、驚きました。先生がまず、私に過去問を解かせて、苦手な分野を指摘し、そこに焦点をしばって勉強することを勧めてくれました。毎回課題を出して、丁寧に説明してくれます。苦手だった文法が少しずつ理解できるようになりました。プロの先生が、付きっきりで教えてくれる、「まるで個別の家庭教師みたい、なんて豪華！こんなのいいの？」って今も思っています。

私はビートルズやクィーンといったちょっと古い洋楽が好きなんですけど、ここで勉強しているところが歌詞に出てきて、はっと意味がわかる瞬間があつて、「わかる、わかる！」ってうれしくなります。

ここはゆったりとした雰囲気、向こうからはカードゲームを楽しむ男の子達の声が聞こえてくることもあります。でも、ここに来れば、自分のしたい勉強ができます。それを教えてくれる先生がいます。いなければきっとさがしてくれます。自分が勉強をしたいことがあったら、みなさん、まず、相談をしてみてください。

1月に英検の準2級は合格してるといいなあ。合格できたら、今度は2級を目指します。先生、これからも応援してください！（合格しました～、うれしいです）

6 事業の成果と課題

(1) 成果

○困難を抱える若者のステップアップに貢献した。

参加者の能力等に合わせた高卒認定試験合格に向けた学習支援を実施することができた。

<参考>

- ・高卒認定試験受験者（6か年）実人数：153人
- ・高卒認定試験合格者（6か年）全科目合格者数：67人
一部科目合格者数（延べ）：74人
- ・学習支援参加者における高卒認定試験受験者数の割合（6か年）：38.6%
- ・高卒認定試験受験者における全科目合格率（6か年）：39.2%

地域	実受験者数割合 (対参加者数)						全科目合格者数 (対参加者数)						全科目合格者数 (対受験者数)					
	R4	R3	R2	R1	H30	H29	R4	R3	R2	R1	H30	H29	R4	R3	R2	R1	H30	H29
名古屋	28.6%	34.6%	44.4%	42.1%	71.4%	21.1%	15.2%	19.2%	16.7%	21.1%	21.4%	10.5%	50.0%	55.6%	42.9%	50.0%	30.0%	50.0%
豊橋	8.3%	11.8%	30.8%	41.2%	42.9%	33.3%	0.0%	0.0%	15.4%	17.6%	28.6%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%	42.9%	66.7%	50.0%
豊田	18.2%	25.9%	20.0%	25.0%	37.5%	28.6%	9.1%	11.1%	6.7%	10.0%	12.5%	14.3%	50.0%	42.9%	33.3%	40.0%	33.3%	50.0%
半田	55.6%	44.4%	33.3%	100.0%	—	—	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%	—	—	60.0%	25.0%	0.0%	100.0%	—	—
春日井	80.0%	58.3%	50.0%	66.7%	—	—	35.7%	25.0%	12.5%	0.0%	—	—	41.7%	42.9%	25.0%	0.0%	—	—
一宮	0.0%	33.3%	100.0%	—	—	—	0.0%	0.0%	50.0%	—	—	—	—	0.0%	50.0%	—	—	—
蒲郡	11.5%	3.3%	16.7%	—	—	—	7.7%	3.3%	0.0%	—	—	—	66.7%	100.0%	0.0%	—	—	—
愛西	66.7%	66.7%	—	—	—	—	16.7%	66.7%	—	—	—	—	25.0%	100.0%	—	—	—	—
知立	0.0%	—	—	—	—	—	0.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	27.5%	26.0%	32.3%	39.3%	52.8%	25.0%	12.9%	11.8%	11.8%	18.0%	22.2%	12.5%	46.2%	45.5%	37.9%	45.8%	42.1%	50.0%
平均	31.2%						13.7%						44.1%					

※ 参加者数は、各年度、事業開始から第2回高卒認定試験日（令和4年11月6日）までの人数とした。

○切れ目のない支援の実施

例年課題であった事業開始時期の早期化であるが、継続地域については4月から開始することができた。

【（参考）継続地域の契約時期】

①H29～R1年度【委託事業】	②R2年度【補助事業】	③R3・R4年度【補助事業】
・国の審査を経て事業実施 ◎7月契約 （継続地域の契約はH30～）	・県のプロポーザル審査会で委託団体を選定後、契約 ◎5月契約	・継続地域については現委託団体と随意契約 ◎4月契約

(2) 課題

○他機関との連携強化

今年度、目標としていた県内9地域での「若者・外国人未来塾」の実施を実現することができた。今後、各地域が地域の実情に合わせて、自立して事業を展開する体制を整える必要がある。本事業は、支援の対象者がどこにも所属しておらず、捕捉が難しいことが特徴の一つとしてある。支援を必要としている方に、事業の周知が行き届くよう様々な支援機関・団体と連携することは極めて大切なことである。

そのため、各地域での支援ネットワークの構築を目指す地域協議会は重要な時間である。令和2年度から地域協議会は委託団体主催ということになったが、新型コロナウイルス感染症の影響から、地域協議会を対面で実施することは過去2年、思うように進めることはできなかった。しかし、令和4年度は感染症対策を施しながらではあったが、対面での実施をすることができた。地域協議会の実施が委託団体主催となって実質、初めての開催とも言える状況であったので、今年度の検討事項や協議会の運営について振り返り、次年度以降に、より効果的な事業展開ができるように県生涯学習課も積極的に関わっていきたいと考えている。

また、各地域での委託団体の事業運営が円滑に進むよう、会場のある自治体を中心とした携を強化していく方策を検討していきたい。

○支援の質向上

事業を拡大し利用者が多くになるにつれ、外国人の方や、障害・様々な悩みを抱えた方が利用されることが考えられる。また、利用者の方の目的意識も多様になり、多くのニーズを求められることになり、支援員・スタッフの対応力が求められる。また、利用者のニーズに対して対応できる支援員・スタッフの確保も大きな課題である。

例えば、利用者の方にとっては、高卒認定試験で全科目合格をするなど学習面での目標を達成したとしても、その結果はゴールではない。その取得資格や学んできた経験を活かし、その後の人生をどのように過ごしていくのが大切である。そうした、新たな目標を立てるための支援の在り方についてもどのようにするべきかを考えることも「切れ目のない支援」として必要である。

県生涯学習課としても、利用者が悩みを解決し、次のステップアップへと進めることができる事業となるよう各地域委託団体への支援を積極的に行っていききたい。

今年度、実施に当たった県内9地域の団体が、それぞれ実績を挙げ、年数は各団体により異なるもののノウハウは確実に蓄積されている。そのノウハウを県全体として共有し、各地域での支援に還元することで、事業全体の質の向上を図る仕組みを構築することも必要である。

課題については、一つずつ解決を図りながら、一人でも多くの方が、今置かれている困難な状況を乗り越えて、自分の将来に希望を持つ手助けの事業となるよう、次年度以降も検討を重ねていく。

令和4年度（2022年度）
愛知県「若者・外国人未来応援事業」成果報告書

発行 令和5年3月 愛知県教育委員会生涯学習課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号